

パーソナル オーディオシステム

取扱説明書・保証書

準備する

聞く

録音する

その他

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は安全のための注意事項を守らないと、
火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。
この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。



安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

3～6ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

定期的に点検する

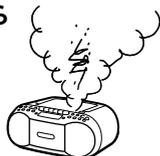
1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーの相談窓口にて修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、
煙が出たら



- ① 電源を切る
- ② 電源プラグをコンセントから抜く
- ③ お買い上げ店またはソニーの相談窓口にて修理を依頼する

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。



この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。



この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



火災



感電

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



接触禁止



ぬれ手禁止

行為を指示する記号



プラグをコンセントから抜く



指示



下記の注意事項を守らないと
火災・感電・破裂により
死亡や大けがの原因となります。

機器を本箱や組み立て式キャビネットのような通気が妨げられる狭いところに設置しないでください。

火災や感電の危険をさけるために、本機を水のかかる場所や湿気のある場所で使用しないでください。

本機は容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いてください。通常、本機の電源ボタンを押して電源を切っただけでは、完全に電源から切り離せません。

本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。

本機の上に、例えば火のついたローソクのような、火災源を置かないでください。

電池は、直射日光、火などの過度な熱にさらさないでください。

付属の電源コードセットは、本機専用です。他の電気機器では使用できません。

機銘板は本機の底面にあります。

ご注意

この装置に対し光学機器を使用すると、目の危険を増やすことになります。

レーザーの仕様

- 放射時間：連続
- レーザー出力：44.6μW 未満

この出力値は、7mm の開口部にて光学ピックアップブロックの対物レンズ面より 200mm の距離で測定したものです。

可燃ガスのエアゾールやスプレーを使用しない



禁止

清掃用や潤滑用などの可燃性ガスを本機に使用すると、モーターやスイッチの接点、静電気などの火花、高温部品が原因で引火し、爆発や火災が発生する恐れがあります。



火災



感電

下記の注意事項を守らないと**火災・感電により死亡や大けが**の原因となります。

内部に水や異物を入れない

本機の上に熱器具、花瓶など液体が入ったものやローソクを置かない。内部に水や異物が入ると火災の原因となります。万一、水や異物が入った場合は、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店またはソニー相談窓口にご依頼ください。



禁止

雷が鳴りだしたら、FMアンテナや電源プラグに触れない

感電の原因となります。FMアンテナ付き製品を屋外で使用中に、遠くで雷が鳴り出したときは、落雷を避けるため、すぐにアンテナを縮めて使用を中止し、その後は触れないでください。



接触禁止

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。



禁止

ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。



ぬれ手禁止

万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーの相談窓口にご依頼ください。

通風孔をふさがない

本機に新聞紙、テーブルクロス、カーテン、布などをかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または壁や家具に密着して置いて、通風孔をふさがないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。



禁止

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や直射日光のあたる場所には置かない

火災や感電の原因となることがあります。とくに風呂場では絶対に使用しないでください。



禁止

海外では使用しない

交流100Vの電源でお使いください。海外などで、異なる電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。



指示



下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり**周辺の家財に損害**を与えたりすることがあります。

内部を開けない

感電の原因となることがあります。内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーの相談窓口にご依頼ください。



分解禁止

移動させるとき、長時間使わないときは、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだまま移動させると、電源コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。またFMアンテナ付きの製品を持ち運ぶ際は、目のけがなどをしないように、アンテナを縮めてください。長期間の外出・旅行のときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。差し込んだままにしていると火災の原因となることがあります。



プラグをコンセントから抜く

お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



プラグをコンセントから抜く

安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。また、置き場所の強度も十分に確認してください。



禁止

大音量で長時間つづけて聞かさない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。とくにヘッドホンで聞くとときにご注意ください。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。



禁止

幼児の手の届かない場所に置く

CDぶたやカセットぶたなどに手をはさまれ、けがの原因となることがあります。お子さまがさわらぬようご注意ください。



禁止

円形CD以外は使用しない

円形以外の特殊な形状(星型、ハート型、カード型など)をしたCDを使用すると、高速回転によりCDが飛び出し、けがの原因となることがあります。



指示

電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

異常が起きた場合にプラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるように、電源プラグは容易に手の届くコンセントにつないでください。通常、本機の電源スイッチを切っただけでは、完全に電源から切り離されません。



指示

- 本製品の不具合により、録音や再生ができなかった場合、および録音内容が破損または消去された場合など、いかなる場合においても録音内容の補償についてはご容赦ください。また、いかなる場合においても、当社にて録音内容の修復、復元、複製などはいたしません。
- 本製品を使用したことによって生じた金銭上の損害、逸失利益および第三者からのいかなる請求につきましても、当社は一切その責任を負いかねます。
- お客様が録音したものは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱・発火・誤飲による大けがや失明を避けるため、下記のことを必ずお守りください。

本製品では以下の電池をお使いいただけます。電池の種類については、電池本体上の表示をご確認ください。

乾電池

単2形乾電池(アルカリ乾電池の使用をおすすめします。)

危険 乾電池が液漏れしたとき

乾電池の液が漏れたときは、素手で液をさわらない。

液が本体内部に残ることがあるため、ソニーの相談窓口またはお買い上げ店、ソニーサービスステーションにご相談ください。

液が目に入ったときは、失明の原因になることがあるので目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。

液が身体や衣服についたときも、やけどやけがの原因になるので、すぐにきれいな水で洗い流し、皮膚に炎症やけがの症状があるときには医師に相談してください。

警告

- 乾電池は、機器の表示に合わせて＋と－を正しく入れる。
- 充電しない。
- 火の中に入れない。分解、加熱しない。ショートさせない。
- コイン、キー、ネックレスなどの貴金属類と一緒に携帯・保管しない。
- 液漏れした電池は使わない。
- 使いきった電池は取りはずす。
- 長期間使用しないときは電池を取りはずす。
- 交流電源で使用するときは電池は取り外す。
- 水などでぬらさない。風呂場などの湿気の多いところでは使わない。
- 新しい電池と使用した電池、種類の違う電池を混ぜて使わない。

注意

- 電池を火のそばや直射日光のあたるところ・炎天下の車中など、高温の場所で使用・保管・放置しない。
- 外装のビニールチューブをはがしたり、傷つけたりしない。
- 指定された種類以外の電池は使用しない。
- 廃棄の際は、地方自治体の条例または規則に従ってください。
- 電池には使用期限があります。使用期限が切れた電池を使用すると、極端に電池寿命が短くなる場合があります。電池交換時は、お使いの乾電池が使用期限内であることをご確認ください。

目次

安全のために 2

準備する

電源を準備する.....	10
乾電池の残量と警告表示について.....	11
乾電池の残量を調べるには.....	11

聞く

CDを聞く.....	13
データCD (MP3 CD)のフォルダや	
曲を選んで聞く.....	16
いろいろな再生方法でCDを聞く.....	17
繰り返し聞く(リピート再生).....	17
選んだフォルダ内の曲だけを聞く	
(フォルダ再生).....	18
順不同に聞く(シャッフル再生).....	19
聞きたい曲を好きな順に聞く	
(プログラム再生).....	19
CDの取り扱いとお手入れについて.....	21
ラジオを聞く.....	22
ラジオの受信場所と	
アンテナの調整について.....	23
放送局を自動で登録する	
(プリセット登録).....	25
プリセット番号を選んで	
放送局を記憶させるには	
(手動プリセット登録).....	25
プリセット登録した放送局を聞く	
(プリセット選局).....	26
お気に入りラジオ局(登録:長押し)	
ボタンに放送局を登録する.....	27
お気に入りラジオ局(登録:長押し)	
ボタンに登録した放送局を聞く.....	27
テープを聞く.....	28
再生/録音ヘッドの清掃のしかた.....	30
消去ヘッドの清掃のしかた.....	31
外部機器をつないで聞く.....	32
ヘッドホンをつないで聞く.....	33
おやすみタイマーを使う.....	33

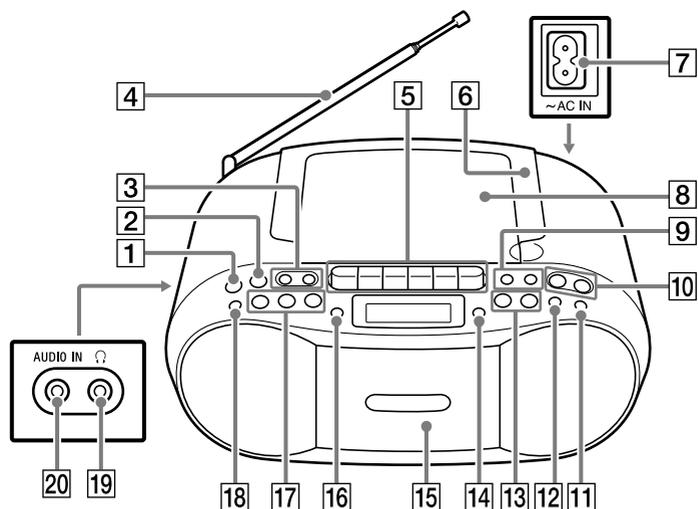
録音する

テープに録音する.....	35
録音した曲や音声を消去する.....	38

その他

困ったときは.....	40
メッセージ一覧.....	44
使用上のご注意.....	45
主な仕様.....	47
ディスクとカセットテープについて....	48
再生できるディスク.....	48
使用できるカセットテープ.....	48
再生できるファイルについて.....	49
サポートページのご案内.....	49
保証書とアフターサービス.....	50
索引.....	51

各部のなまえ



本機を持ち運ぶときは、ハンドルを立ててしっかりと握ってください。

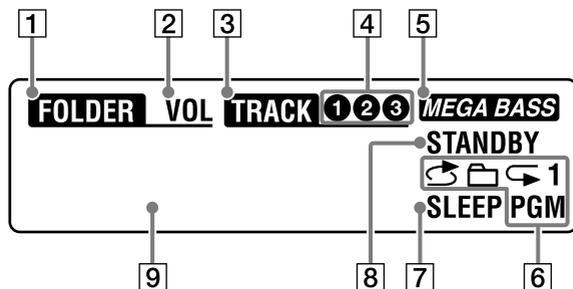


- | | |
|---|---|
| <p>1 電源(⏻)ボタン</p> <p>2 FM/AMボタン</p> <p>3 選局/□+ボタン、選局/□-ボタン</p> <p>4 FMアンテナ*¹</p> <p>5 カセットテープ操作ボタン
一時停止(⏸)ボタン
停止/開(⏹)ボタン
早送り(⏮)ボタン
巻戻し(⏪)ボタン
再生(▶)ボタン*²
録音(●)ボタン</p> <p>6 ハンドル</p> <p>7 ~ AC IN端子</p> <p>8 CDぶた</p> <p>9 登録局選択+・▶▶▶ (曲送り・早送り)ボタン、登録局選択-・◀◀◀ (曲戻し・早戻し)ボタン</p> <p>10 音量+ボタン*²、音量-ボタン</p> | <p>11 MEGA BASSボタン</p> <p>12 音声入力ボタン</p> <p>13 CD再生/一時停止(▶⏸)ボタン*²、停止(■)ボタン</p> <p>14 再生モードボタン</p> <p>15 カセットぶた</p> <p>16 表示切換/決定ボタン</p> <p>17 お気に入りラジオ局(登録:長押し)ボタン</p> <p>18 タイマー:切ボタン</p> <p>19 Ω (ヘッドホン)端子</p> <p>20 AUDIO IN (音声入力)端子</p> |
|---|---|

*¹ FM放送を受信するときは、FMアンテナを引き出してください(AMのアンテナは本体に内蔵されています)。

*² 凸点(突起)がついています。操作の目印としてお使いください。

表示窓



- 1** フォルダ表示
フォルダ番号が表示されているときに点灯します。
- 2** 音量アイコン
音量調整のときに点灯します。
- 3** トラック表示
曲番号が表示されているときに点灯します。
- 4** お気に入りラジオ局アイコン
お気に入りラジオ局(登録:長押し) ボタンに放送局を登録したときや、ボタンを押して登録した放送局を選んだときに点灯します。
- 5** MEGA BASS表示
MEGA BASSがオンのときに点灯します。
- 6** CD再生モードアイコン
現在設定している再生モードのアイコンが点灯します。
- 7** おやすみタイマーアイコン
おやすみタイマーの設定・動作中に、点灯または点滅します。
- 8** ステレオ放送受信表示/スタンバイ表示
本機の電源を切ってスタンバイの状態のときに点灯します。
ステレオ放送受信表示(ST表示)
本機のラジオ機能でFMのステレオ放送を受信しているときに「ST」が点灯します。
- 9** テキスト情報表示エリア
CDの総曲数や再生中のトラックの再生経過時間などのトラック情報、音量、ラジオ局の周波数などが表示されます。

準備する

電源を準備する

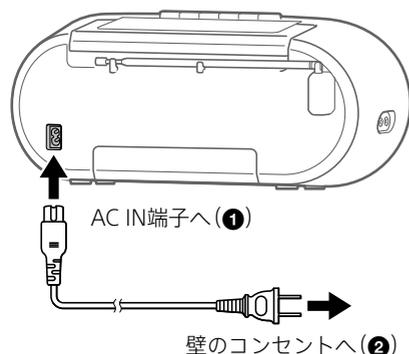
本機は家庭用電源、または乾電池(別売)のいずれかを選んでお使いになれます。

乾電池について

単2形アルカリ乾電池のご使用をおすすめします。単2形マンガン乾電池も使用できますが、使用時間が著しく短くなることがあります。

電源コードを接続する

本体のAC IN端子へ電源コードのプラグを差し込んだあと(①)、壁のコンセントへプラグを差し込んでください(②)。

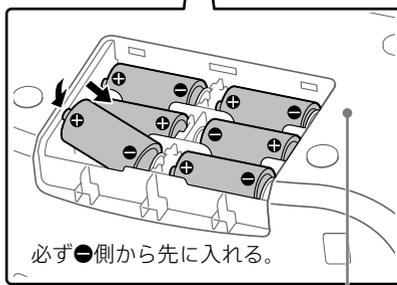
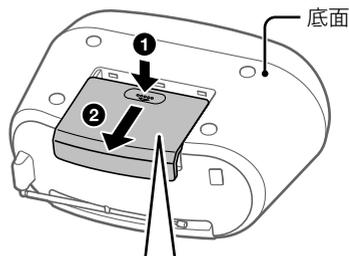


電源コードのプラグの先端がAC IN端子の奥に当たるまでしっかりプラグを差し込んでください。

乾電池を使用する

電池ぶたを開き、別売りの単2形乾電池6本を⊕と⊖の向きを確認して入れてください。

電池ぶたを押しながら(①)、手前に引く(②)



図で示した電池の向きに合わせて入れてください。電池の向きは列ごとに異なります。

乾電池でお使いになるときは、本体のAC IN端子から電源コードを抜いてください。 乾電池が正しく入っていても、電源コードがAC IN端子に接続されていると電源検出スイッチが働くため、本機の電源は入りません。

ご注意

- 乾電池交換の際は、電池に表示されている使用期限を確認してください。
買い置きしたまま長時間放置した乾電池は、消耗していて使えない場合があります。
- 電池の使いかたを誤ると、液漏れや破裂の恐れがあります。次のことを必ず守ってください。
 - ⊕と⊖の向きを正しく入れてください。
 - 新しい電池と使用した電池、種類の違う電池を混ぜて使わないように、電池を入れる前に確認してください。
 - 長い間本機を使わないときは、電池を取り出してください。

- 乾電池アダプターなどを使って単2形乾電池以外の電池を使わないでください。単2形乾電池よりも小さい乾電池は、電流量や電池容量が小さく正しく動作できません。また、乾電池アダプターの形状によっては正常に装着できない場合や、電池端子部分での接触不良などが起こる場合があります。
- 充電電池(単2形ニッケル水素電池)は、同形のアルカリ電池に比べて電圧が低く、電流量や充電容量などの関係で本機では使用できません。
- 本機をマンガン乾電池でお使いの場合、使用時間が著しく短くなることがあります。アルカリ乾電池での使用をおすすめします。
- 乾電池を出し入れするときは、本体やCDなどが傷つくのを防ぐために次のことを必ず守ってください。
 - 電源コードを抜く。
 - CDを取り出す。
 - FMアンテナを元の位置に戻す。
 - テープを取り出す。

ご注意

- 「**BATT**」は、乾電池の寿命が近づいていることを示しています。引き続き乾電池でお使いの場合は、電池切れに備えて、予備の新しい乾電池をご用意ください。「**LOBATT**」が表示されて電源が切れた場合は、電池をすべて新しいものと交換してください。
- 本機は充電電池を内蔵していません。

乾電池の残量を調べるには

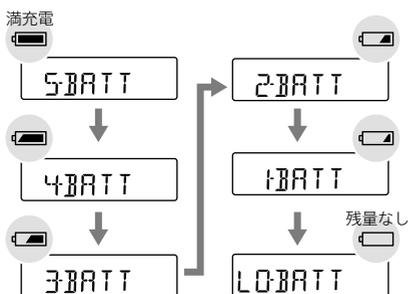
- CD機能またはFM/AM機能をお使いのとき
表示切換/決定ボタンを繰り返し押す。
- テープ機能または音声入力機能をお使いのとき
表示切換/決定ボタンを一度押す。



乾電池の残量と警告表示について

本機を乾電池でお使いの場合は、以下のイラストのとおり*、5段階のレベルで電池の残量を表示し、残量がほとんどない状態になると、「**LOBATT**」の警告メッセージが8秒間点滅し、その後、自動的に本機の電源が切れます。電池残量は数値が大きいほど、残量が多いことを示します。

* 電池のアイコンは乾電池の残量イメージです。実際にはアイコンは表示されません。



8秒間の「**LOBATT**」の点滅後に、本機の電源が自動的に切れます。

ご注意

- CDを読み込み中のときは、「**READY**」が点滅しているとき、電池残量を確認できません。読み込みが完了してから表示切換/決定ボタンを押してください。
- 乾電池が入っていても、電源コードをつないで本機をお使いのときは、電池残量は確認できません。
- CDの曲のプログラム登録中は、電池残量を確認できません。

電源について

電源 (⏻) ボタンを押すと電源が入ります。電源を切るには、もう一度、**電源** (⏻) ボタンを押します。



各種設定の消去／保持について

電源コードを抜いたり、乾電池を外したときに、本機のメモリーから設定内容が消去されるものと保持されるものがあります。ご注意ください。

• 消去される設定

音量、選択していたラジオ機能 (FMまたはAMおよび周波数)、FM放送の受信モード (ステレオ／モノラル)、選択していたCD再生モード、MEGA BASS (オン／オフ)、最後にお使いになっていた機能

• 保持される設定

自動または手動でプリセット登録したラジオの放送局、**お気に入りラジオ局 (登録：長押し)** ボタンに登録した放送局

CDを聞く

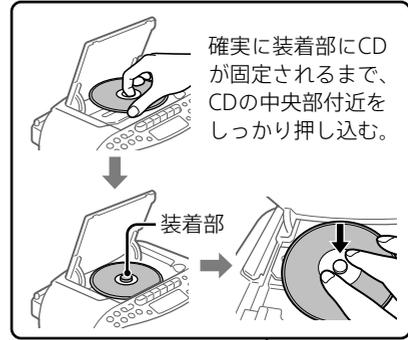
操作をする前に、次のことを確認してください。

- CDが指紋やほこりで汚れていないか確認し、汚れている場合には、汚れを拭きとってください。CDの汚れについて詳しくは、「CDの取り扱いとお手入れについて」(21ページ)をご覧ください。
- CDに傷やひび割れがないか確認してください。傷やひび割れがある場合には、別のCDを使用してください。CDの傷やひび割れについて詳しくは、「CDの取り扱いとお手入れについて」(21ページ)をご覧ください。

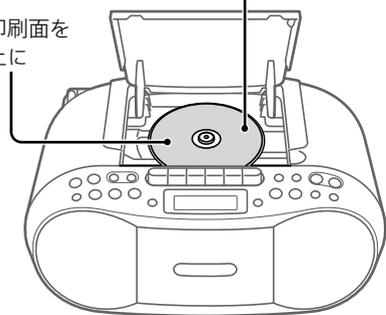


- お使いになるCDが本機で再生できるディスクか確認してください。詳しくは、「再生できるディスク」(48ページ)と「再生できるファイルについて」(49ページ)をご覧ください。

2 CDを入れて、CDぶたを閉める。



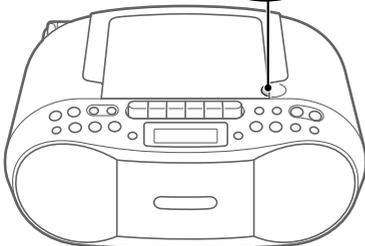
印刷面に上



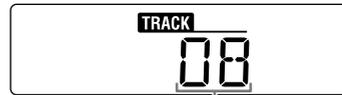
CDぶたを閉めると、CDの読み込みが始まり、表示窓に「PREP」が点滅します。CDが読み込まれると、表示窓にCDの情報が表示されます。

1 CDぶたを開ける。

指をかけてCDぶたを引き上げる。



音楽CDの場合



総曲数



総再生時間

データCD (MP3 CD)の場合



総フォルダ数* 総曲数

* フォルダの無いデータCDの場合は、「00」が表示されます。

3 CD再生/一時停止(▶||)ボタンを押す。

再生が始まります。

再生が始まります。



再生中は、現在再生している曲の情報が表示窓に表示されます。表示切換/決定ボタンを繰り返し押すと、情報が切り換わります。



再生経過時間*1、2

*1 データCD (MP3 CD) で総再生時間が100分を超えたときは、「-- --:-- --」と表示されます。

*2 再生するCDにより、表示情報が異なります。

- 音楽 CD (CD-DA) の再生中：
再生経過時間 → 現在再生中の曲番号

← 乾電池残量*3 ←

- MP3 CD の再生中：
再生経過時間 → 現在再生中の
フォルダ番号と曲番号

← 乾電池残量*3 ←

*3 乾電池でお使いの場合。

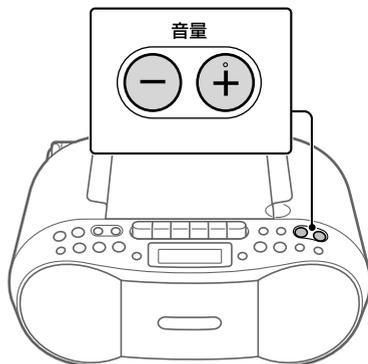
データCD (MP3 CD) の再生については、「データCD (MP3 CD) の再生の順番について」(16ページ)や「データCD (MP3 CD) のフォルダや曲を選んで聞く」(16ページ)もあわせてご覧ください。

音量を調節するには

音量+または-ボタンを押す。音量は0から31 (最大)の間で調節できます。

ボタンを押したままにすると、連続して音量が調節できます。

音量を上げると音が割れたり、ひずんだりすることがあります。そのような場合は、音量を調節して適度な音量で聞いてください。

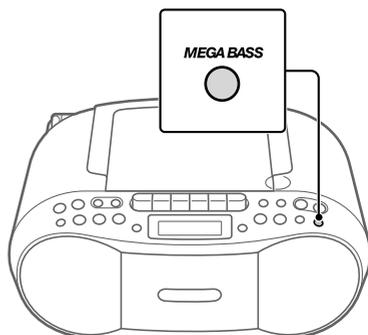


迫力のある重低音を楽しむには

MEGA BASSボタンを押す。

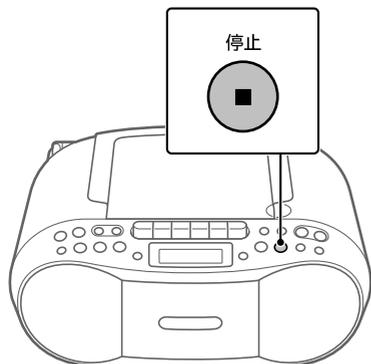
ボタンを押すたびに、オン/オフが切り換わります (初期設定：オン)。

MEGA BASS機能をオン (有効) にすると、表示窓に「MEGA BASS」が表示され、音量を上げてもひずみにくく、また小音量時でも迫力のある低音が得られます。



再生をやめるには

停止(■)ボタンを押す。



再生中に一度だけ**停止(■)**ボタンを押すと停止したトラック(曲)を本機が記憶し、次回**CD再生/一時停止(▶||)**ボタンを押したときは、停止した曲の頭から再生を再開します。CDの先頭の曲から再生をやり直したいときは、**停止(■)**ボタンを2回押してから**CD再生/一時停止(▶||)**ボタンを押して再生を開始してください。

ご注意

- 以下の操作をすると、本機が記憶したトラックの停止情報はクリアされます。
 - 再生中に**停止(■)**ボタンを2回押して完全停止状態にしたとき。
 - CDぶたを開けたとき
 - 電源コードを抜いたとき
 - 電源(⏻)ボタンを押して電源をオフにしたとき
 - 再生モードが「CD」(シャッフル再生)、「PGM」(プログラム再生)または「PGM」(プログラムリピート再生)のとき

再生中に一時停止するには

CD再生/一時停止(▶||)ボタンを押す。

もう一度押すと、一時停止した位置から再生が再開します。

次の曲へ進む/曲の頭に戻すには

- 次の曲に進むとき
登録局選択+(▶||)ボタンを押す。
- 曲の頭に戻すとき
登録局選択-(◀||)ボタンを押す。

再生中に一度ボタンを押すと曲の頭に戻ります。連続して二度ボタンを押した場合、または停止中にボタンを押した場合は、ひとつ前の曲に戻ります。



再生中に早送り/早戻しするには

- 早送り
再生中に**登録局選択+(▶||)**ボタンを押したままにして、聞きたいところで指を離す。
- 早戻し
再生中に**登録局選択-(◀||)**ボタンを押したままにして、聞きたいところで指を離す。

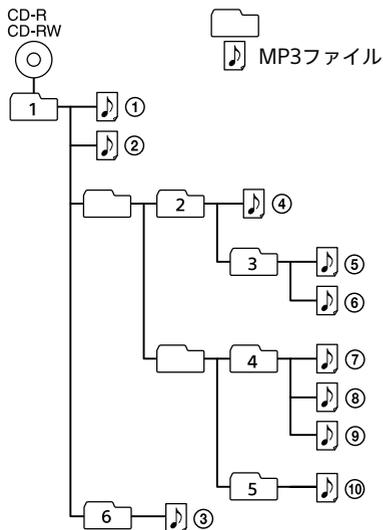
CDを取り出すには

CDぶたを開け、CDを取り出す。
再生中の場合は、**停止(■)**ボタンを押して再生を止めてから取り出してください。



データCD (MP3 CD)の再生の順番について

MP3フォーマットのオーディオファイルを記録したCDは、フォルダ構成や書き込みの方法によって再生の順番が異なる場合があります。次の図のCDの例では、①から⑩の順にファイルが再生されます。



(使用できる最大ディレクトリ階層：9階層)

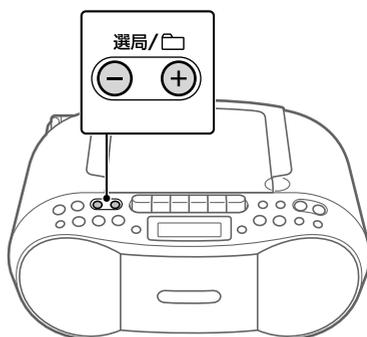
データCD (MP3 CD)のフォルダや曲を選んで聞く

聞きたいファイルや、ファイルが入っているフォルダを選んで、再生を始めることができます。

1 CDを入れる。

「CDを聞く」(13ページ)の手順1～2をご覧ください。

2 選局/□+または-ボタンを押してフォルダを選ぶ。



3 再生を始める。

選んだフォルダの1曲目から再生を始める場合

CD再生/一時停止 (▶||) ボタンを押す。
再生が始まります。

フォルダ内の曲を選んで再生を始める場合

登録局選択+ (▶|I) または- (I◀◀) ボタンを押して曲を選び、CD再生/一時停止 (▶||) ボタンを押す。
再生が始まります。

💡 ちょっと一言

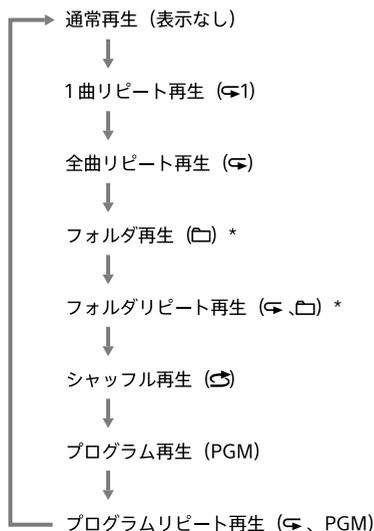
再生中に選局/□+または-ボタンを押してフォルダを切り換えたときは、フォルダが切り換わりと同時に、自動的に選んだフォルダの1曲目からの再生に変わります。登録局選択+ (▶|I) または- (I◀◀) ボタンを押して再生したい曲を選んでください。

いろいろな再生方法 でCDを聞く

音楽CDまたはデータCD (MP3 CD)の音楽を再生するときに、再生モードを設定することでいろいろな再生方法で曲を楽しむことができます。

- 再生モードは、曲の再生中や一時停止中には設定できません。再生中または一時停止中に**再生モード**ボタンを押すと、「PUSH」と「STOP」が交互に表示されます。**停止** (■) ボタンを押して停止してから、再生モードを切り換えてください。
- CD機能以外の機能を使っているときは、いったん**CD再生/一時停止** (▶||) ボタンを押してあらかじめCD機能に切り換え、**停止** (■) ボタンを押して停止してから再生モードを設定してください。

再生モードは、**再生モード**ボタンを繰り返し押すと以下のとおり切り換わります。



* MP3 CDのMP3ファイルを再生する場合のみお使いいただける再生モードです。

繰り返し聞く (リピート再生)

音楽CDやデータCD (MP3 CD)の1曲または全曲を繰り返して聞くことができます。

再生が停止していることを確認し、**再生モード**ボタンを繰り返し押す。



リピート再生モードの表示

1曲だけ繰り返すには

- 「↺1」が表示されるまで、**再生モード**ボタンを繰り返し押す。
- 登録局選択+** (▶||) または **-** (◀||) ボタンを押して曲を選び、**CD再生/一時停止** (▶||) ボタンを押す。
フォルダ内の曲を選ぶときは、**選局/□+** または **-** ボタンを押してフォルダを選んでから**登録局選択+** (▶||) または **-** (◀||) ボタンを押します。



全曲を繰り返すには

- 1 「◀」が表示されるまで、再生モードボタンを繰り返し押す。
- 2 CD再生/一時停止(▶||) ボタンを押す。

選んだフォルダ内の曲だけを聞く(フォルダ再生)

再生するデータCD (MP3 CD) がフォルダに曲を入れて作成されている場合には、フォルダを選んで曲を再生することができます。

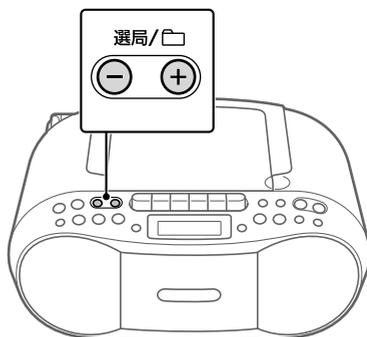
- フォルダのないデータCD (MP3 CD) の場合には、フォルダを選択して再生することはできません。CDの先頭からの通常の再生となります。
- CD-DA (音楽CD) にはフォルダが無いため、フォルダ選択の機能は使用できません。

- 1 再生が停止していることを確認し、「□」が表示されるまで再生モードボタンを繰り返し押す。
CDに記録されているフォルダとトラック(曲)の総数が表示されます。

フォルダ再生モードの表示



- 2 選局/□+または-ボタンを押してフォルダを選ぶ。



選択したフォルダの番号とそのフォルダに含まれる曲数が表示されます。



- 3 CD再生/一時停止(▶||) ボタンを押す。
フォルダ内の先頭の曲から順番に再生が始まります。

フォルダ再生をやめるには
停止(■) ボタンを押してフォルダ再生を停止し、「□」の表示が消えるまで、再生モードボタンを繰り返し押す。

選んだフォルダ内の全曲を繰り返すには (MP3 CDのみ)

- 1 再生が停止していることを確認し、「」と「」が表示されるまで、再生モードボタンを繰り返し押す。
- 2 選局/+または-ボタンを押してフォルダを選ぶ。
- 3 CD再生/一時停止 () ボタンを押す。

順不同に聞く (シャッフル再生)

音楽CDまたはデータCD (MP3 CD) に収録されている全曲を順不同に聞くことができます。

- 1 再生が停止していることを確認し、「」が表示されるまで再生モードボタンを繰り返し押す。

音楽CDの場合



シャッフル再生モードの表示

データCD (MP3 CD) の場合



シャッフル再生モードの表示

2 CD再生/一時停止 () ボタンを押す。

シャッフル再生が始まります。

ご注意

- シャッフル再生中に登録局選択- () ボタンを押すと、再生中の曲の頭に戻ります。ひとつ前に再生された曲に戻ることはできません。
- MP3 CDの場合には、すべてのフォルダ内のすべてのファイルを対象としたシャッフル再生となります。

シャッフル再生をやめるには停止 () ボタンを押してシャッフル再生を停止し、「」の表示が消えるまで、再生モードボタンを繰り返し押す。

聞きたい曲を好きな順に聞く (プログラム再生)

聞きたい曲を聞きたい順に25曲までプログラム登録することができます。

- 1 再生が停止していることを確認し、「PGM」が表示されるまで再生モードボタンを繰り返し押す。

音楽CDの場合



プログラム再生モードの表示

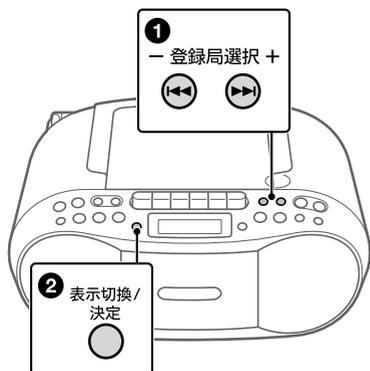
データCD (MP3 CD) の場合



プログラム再生モードの表示

2 登録局選択+(▶▶)または-(◀◀)ボタンを押して曲を選び(①)、表示切換/決定ボタンを押す(②)。

データCD (MP3 CD) から曲をプログラム登録するときに、特定のフォルダ内の曲を選びたいときは、あらかじめ**選局/□+**または**-**ボタンを押してフォルダを選んでから、曲を選んでください。



選んだ曲がプログラム登録され、「P-xx」(xxはプログラム番号)が表示されます。



3 引き続き曲を登録する場合は、手順2の操作を繰り返す。

4 CD再生/一時停止(▶II)ボタンを押す。

プログラムした順に曲の再生が始まります。プログラム再生が終わっても、登録したプログラムは保持されます。**CD再生/一時停止(▶II)**ボタンを押すと、同じプログラムをもう一度聞くことができます。

ご注意

CDぶたを開けたり、本機の電源を切ると登録したプログラムの内容は消去されます。

プログラムした曲の総数を調べるには停止中に**表示切換/決定**ボタンを繰り返し押す。ボタンを押すたびに、次のとおり表示が切り換わります。

プログラムした曲の総数
↓
最後にプログラムした曲の曲番号

プログラム再生をやめるには**停止(■)**ボタンを押してプログラム再生を停止し、「PGM」の表示が消えるまで、**再生モード**ボタンを繰り返し押す。

プログラムを削除するには

- **プログラム再生中の場合**
停止(■)ボタンを押して再生を停止し、もう一度**停止(■)**ボタンを押す。登録した曲がすべて消え、「noSTEP」が表示されます。
- **再生が停止しているとき**
停止(■)ボタンを押す。登録した曲がすべて消え、「noSTEP」が表示されます。

プログラム登録した曲を繰り返すには

- 1 「聞きたい曲を好きな順に聞く(プログラム再生)」(19ページ)の手順1から手順4を行う。
- 2 「◀」と「PGM」が表示されるまで、**再生モード**ボタンを繰り返し押す。
- 3 **CD再生/一時停止(▶II)**ボタンを押す。

リピート再生をやめるには

停止(■)ボタンを押してリピート再生を停止し、「◀」または「◀1」の表示が消えるまで、**再生モード**ボタンを繰り返し押す。

CDの取り扱いとお手入れについて

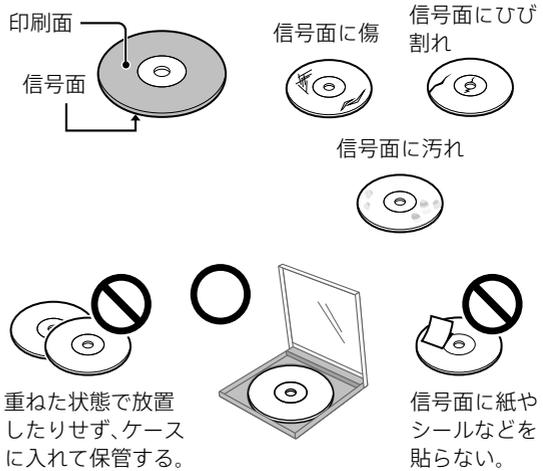
CDをより良い音質でお楽しみいただくには、取り扱いに注意し、いつでも正常に再生できるように、日頃からCDをきれいな状態に保つことが肝心です。

CDの信号面に生じた傷やひび割れ、指紋やほこりによる汚れは、音質低下の原因となるとともに、「今まで再生できていたのに再生できなくなった」などの再生不良の原因になります。

CDの取り扱いかた

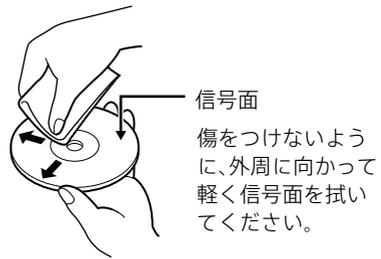
信号面に傷やひび割れが生じると、状態によってはCDの再生ができなくなります。指紋やほこりなどの汚れは、CD再生時のエラーや音質低下の原因となります。

CDを取り扱う際は、傷や汚れをつけないように、信号面(文字が書かれていない面)には触れないように持ってください。また、長時間再生しないときは、ケースに入れて保管してください。ケースに入れずに重ねた状態で置いたり、ななめに立てかけて放置するなどすると、傷がついたりそりの原因となります。



CDのお手入れのしかた

CDが汚れているときは、傷がつかないやわらかい布や市販のクリーニングクロスで信号面を軽く拭いてください。汚れがひどいときは、水で少し湿らせて拭いたあと、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。



ご注意

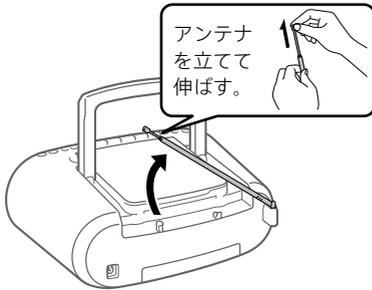
ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などは、CDを傷めることがありますので使わないでください。

ラジオを聞く

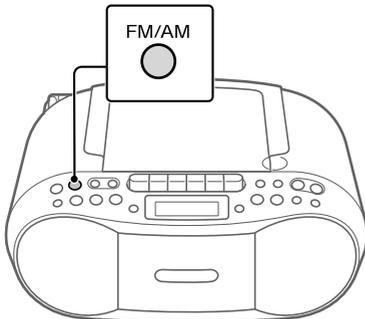
本機は、ワイドFM (FM補完放送)に対応しています。ワイドFM放送とは、AM (中波)放送局の放送エリアにおいて、難受信対策や災害対策のために従来のFM放送用の周波数 (76MHz ~ 90MHz)に加えて、新たに割り当てられた周波数 (90.1MHz ~ 95MHz)を用いてAM番組を放送することです。

1 FMアンテナを立てて伸ばす (FM放送を受信する場合のみ)。

FM放送を受信するときは、あらかじめFMアンテナを立てて伸ばしてください。AM放送を受信する場合にはFMアンテナを立てる必要はありません。AM受信用のアンテナは本体に内蔵されています。



2 FM/AMボタンを繰り返し押し続けてFMまたはAMを選ぶ。



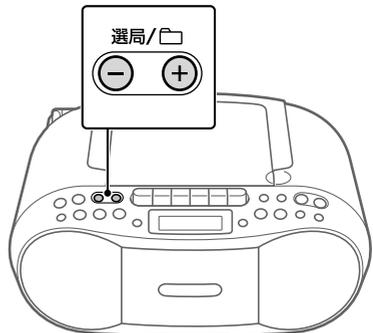
ボタンを繰り返し押し続けると、FMとAMが切り換わり、「FM」または「AM」の表示後 (約2秒間)、周波数の表示に切り換わります。



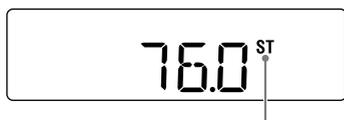
FMの周波数の単位はMHz、AMの周波数の単位はkHzです (例: FMの76.0は、76.0MHz)。

3 選局/□+または-ボタンを押したままにし、周波数の数字が動き始めたなら指を離す。

受信状態の良い放送局が見つかったら、周波数の数字の動きが自動的に止まり、放送を受信します (自動選局)。受信状態によっては、放送局の周波数の前後で自動選局が止まることがあります。その場合には、**選局/□+**または**-**ボタンを押して、聞きたい放送局の周波数に手動で合わせてください (マニュアル選局)。自動選局で周波数の数値の動きを止めたいときは、**停止 (■)**ボタンを押してください。



FMステレオ放送受信表示(ST表示)



FMステレオ放送を受信すると、表示窓に「ST」が点灯します。

受信状態が悪いときは、受信する場所を変えたり、アンテナを調整してみてください。詳しくは、「ラジオの受信場所とアンテナの調整について」をご覧ください。

音量を調節するには

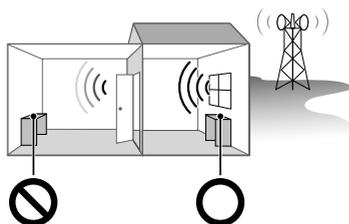
音量+または-ボタンを押す(14ページ)。

迫力のある重低音を楽しむには

MEGA BASSボタンを押す(14ページ)。

ラジオの受信場所とアンテナの調整について

受信環境によって電波状況が変わります。電波状況が悪い所ではうまく受信できないことがあります。また、電波の届きやすさは周辺の環境に左右されます。電波状況の良い場所を探して放送を受信してください。また、受信したい放送に合わせてアンテナを調整してください。



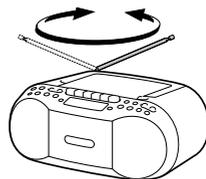
窓の遠くなど
受信しにくい場所

窓の近くなど
受信しやすい場所

FM放送のとき

• アンテナの水平方向の調整

FMアンテナの水平方向を調整する。本体にぶつからない程度にFMアンテナを傾けた状態で回転させてください。アンテナを立てたまま回転しようとすると、アンテナを破損する恐れがあります。



• アンテナの長さ、角度の調整

FMアンテナを伸ばし、長さや垂直方向の角度を調整する。

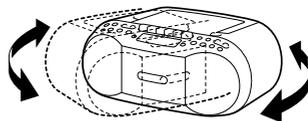
角度は0°～180°の範囲で傾けて調整できます。

長さは180mm～670mmの範囲で長さ調整できます。



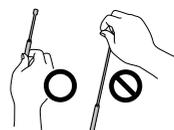
AM放送のとき

本体を最も受信状態の良い方向へ向ける。(AMのアンテナは本体に内蔵されています。)

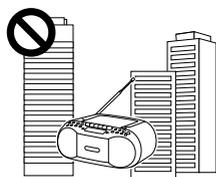


ご注意

- FMアンテナの長さを調整する場合は、FMアンテナの一番太い部分と先端を手で持って伸縮させてください。
- FMアンテナ角度、向きを調整する場合は、必ずFMアンテナの一番太い部分を持って調整してください。先端部を持つたり過剰な力を加えてFMアンテナを傾けたり回転させると、アンテナを破損する場合があります。
- 本機に人の手が触れていると電波状況が変わることがあります。手を触れない状態で、電波状況が良い場所を探してください。



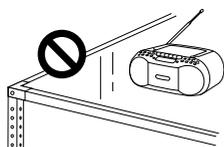
次のような場所では受信状態が悪くなる
ことがあります。



ビルの谷間



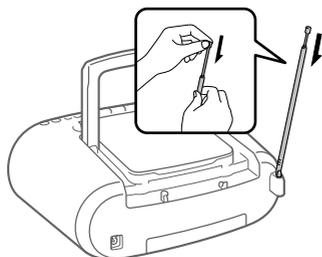
家電製品や
携帯電話の
近く



金属製の机や
台の上

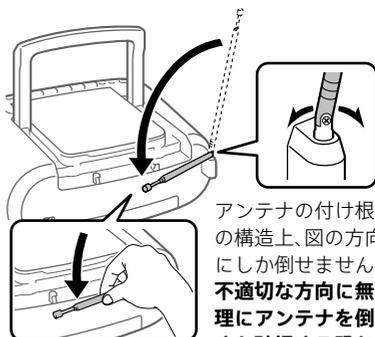
FMアンテナを収納するときは

- 1 FMアンテナをゆっくり縮める。



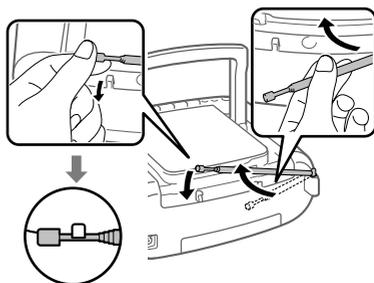
アンテナの先端を持ってゆっくりと
押し下げて縮めてください。**すばや
く押し下げると、縮める際にアンテ
ナが斜めになるなどして、途中で曲
がったり、根元で折れたりする恐れ
があります。**

- 2 アンテナの付け根を見て、軽い力で倒せる
方向を確認し、アンテナを本体にぶつから
ない程度に傾ける。



アンテナの付け根
の構造上、図の方向
にしか倒せません。
**不適切な方向に無
理にアンテナを倒
すと破損する恐れ
があります。**

- 3 傾けた状態でアンテナ留めの上部まで回
し、先端付近を上から押してアンテナ留め
にはめる。



FMステレオ放送の雑音が 気になるときは

FMステレオ放送の受信中に雑音が多いとき
は、モノラル受信に切り換えると雑音を低減
できる場合があります。
モノラル受信に切り換えるには、表示窓に
「Mono」と表示されるまで**再生モード**ボタ
ンを繰り返し押します。
ステレオ放送に戻りたいときは、「ST」が表示
されるまで**再生モード**ボタンを繰り返し押し
てください。

モノラル受信

ステレオ受信

Mono

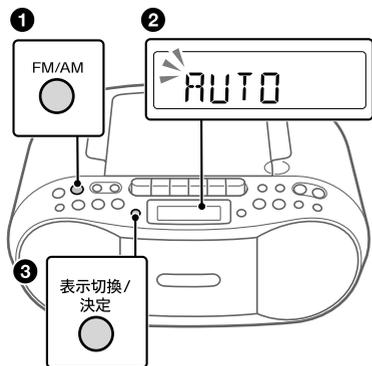
ST

放送局を自動で登録する (プリセット登録)

受信状態の良い放送局を自動的に検索して記憶させ、次からは記憶された番号(プリセット番号)でその局を選ぶことができます。FM20局、AM10局の合計30局まで記憶できます。特によく聞くラジオ局は、**お気に入りラジオ局(登録：長押し)**ボタンに登録すると便利です。**お気に入りラジオ局(登録：長押し)**ボタンについて詳しくは、27ページをご覧ください。

1 FM/AMボタンを繰り返し押ししてFMまたはAMを選ぶ。

2 FM/AMボタンを長押しして①、「AUTO」が点滅し始めたら指を離し②、表示切換/決定ボタンを押す③。



受信状態の良い放送局の検索が始まり、プリセット番号の1番から順に、周波数の低い局から高い局へ検索された局が自動的に記憶されます。

ご注意

「AUTO」は、約8秒間点滅し、点滅が消えるとプリセットの登録モードが解除されます。解除された場合には、**FM/AM**ボタンを長押しして登録をやり直してください。

プリセット番号を選んで 放送局を記憶させるには (手動プリセット登録)

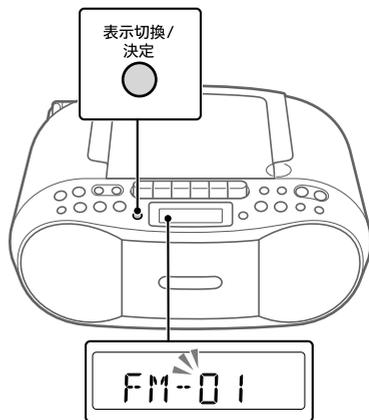
電波が弱く自動登録で放送局が記憶できなかったときや、特定のプリセット番号に放送局を記憶させたいときは、プリセット番号を選んで放送局を記憶させることができます。

1 記憶させたい放送局を受信する。

2 表示切換/決定ボタンを長押しする。

「FM-xx」または「AM-xx」の数字の部分が点滅し始めます*。

* 本機を乾電池でお使いの場合に、手順1で**選局/□+**または**一**ボタンで周波数を合わせて放送局を受信したとき、または**お気に入りラジオ局(登録：長押し)**ボタンを押して登録済みのお気に入りラジオ局を選局したときは、「FM-xx」または「AM-xx」の点滅の前に、約2秒間電池残量が表示されます。



聞く

3 登録局選択+(▶▶)または -(◀◀)ボタンを押して登録した い番号を選び①、表示切換/決定 ボタンを押す②。

登録が完了します。

登録済みのプリセット番号を選んだ場合は、現在受信している放送局の登録に置き換わります。



「FM-xx」または「AM-xx」が2回点滅して、周波数の表示に切り換わったら登録完了です。

💡 ちょっと一言

- 記憶させた放送局は、電源コードを抜いたり、乾電池を取り出しても消えません。
- 登録をやめたいときは、**停止**(■)ボタンを押してください。

プリセット登録した放送局 を聞く(プリセット選局)

放送局を記憶させたプリセット番号を選ぶだけで、簡単に放送局を聞くことができます。

- 1 FM/AMボタンを繰り返し押ししてFMまたはAMを選ぶ。
- 2 登録局選択+(▶▶)または-(◀◀)ボタンを繰り返し押しして、聞きたい放送局のプリセット番号を選ぶ。

プリセット番号を確認するには

ラジオ (FMまたはAM) の受信中に**表示切換/決定**ボタンを繰り返し押す。プリセット番号と周波数が交互に表示されます。

受信中の放送局が本機に登録されていない場合、プリセット番号は表示されません。



💡 ちょっと一言

本機を乾電池でお使いの場合には、**表示切換/決定**ボタンを押すと、プリセット番号、電池残量レベル、周波数の順で表示が切り換わります。

お気に入りラジオ局(登録：長押し)ボタンに放送局を登録する

よく聞く放送局を**お気に入りラジオ局(登録：長押し)**ボタンに登録しておく、ボタンを押すだけで登録した放送局を聞くことができます。

①、②、③の3つの**お気に入りラジオ局(登録：長押し)**ボタンには、FM、AM合わせて3局までの放送局を登録できます。

1 登録したい放送局を受信する。
「ラジオを聞く」(22ページ)の手順1～3をご覧ください。

2 「ピー」と音がするまで、①、②、③のいずれかの**お気に入りラジオ局(登録：長押し)**ボタンを長押しする。

例：ボタン①に登録する場合



「ピー」の音とともに表示窓に**お気に入りラジオ局(登録：長押し)**ボタンの数字が点灯し、登録が完了します。



登録済みのボタンに別の放送局を登録するには

「**お気に入りラジオ局(登録：長押し)**ボタンに放送局を登録する」の操作をやり直してください。新しい放送局を登録すると、同じボタンに登録していた前の放送局は消えます。

お気に入りラジオ局(登録：長押し)ボタンに登録した放送局を聞く

聞きたい放送局に登録した①、②、③のいずれかの**お気に入りラジオ局(登録：長押し)**ボタンを押して、すぐ指を離す。

放送を受信します。表示窓には、選んだ**お気に入りラジオ局(登録：長押し)**ボタンの数字と、周波数が表示されます。



ご注意

登録した放送局を聞くときに**お気に入りラジオ局(登録：長押し)**ボタンを押すのは、2秒以下にしてください。2秒以上押しと、登録していた放送局は、現在受信中の放送局に置き換わります。

💡 ちょっと一言

- **お気に入りラジオ局(登録：長押し)**ボタンに登録した放送局は、電源コードを抜いたり、乾電池を取り出しても消えません。
- 3つの**お気に入りラジオ局(登録：長押し)**ボタンには、初期状態の設定としてFM放送の76.0MHzが登録されています。「**お気に入りラジオ局(登録：長押し)**ボタンに放送局を登録する」の手順に沿って登録することで、登録が上書きされます。

テープを聞く

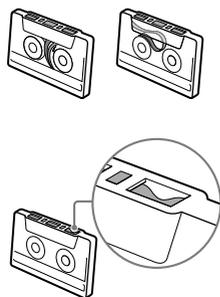
本機では、TYPE I（ノーマル）のカセットテープをお使いください。TYPE II（ハイポジション）、TYPE III（フェリクロム）、TYPE IV（メタル）のテープには対応していません（48ページ）。

操作をする前に、次のことを確認してください。

- テープが機械に巻き込まれるのを防ぐために、カセットデッキに入れる前に鉛筆などでたるみを巻き取るか、カセットデッキに入れたあと再生を始める前に数秒間早送りまたは巻き戻しを行ってください。

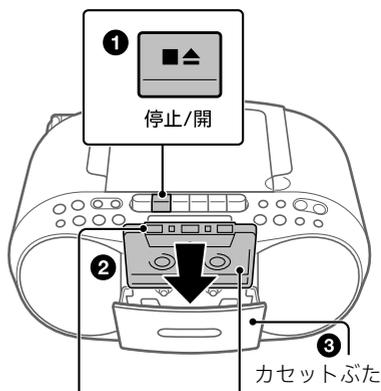


カセット内部でテープがたるんでいる場合もありますので、必ずたるみをとってから再生してください。テープが正しい位置を通らず、動作不良を起こす恐れがあります。



- 長時間テープは機械に巻き込まれる場合がありますので、90分以下のテープをお使いください。

- 1 停止/開(■▲)ボタンを押して(①)、カセットを入れ(②)、カセットぶた(③)を閉める。

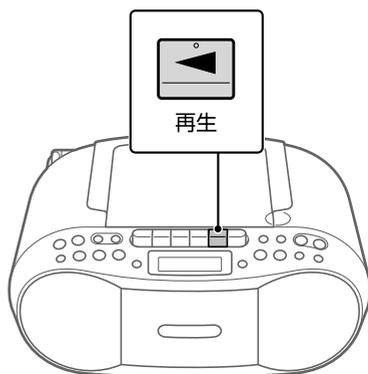


テープ面を上にして入れる。

聞きたい面(A面またはB面)を手前にして入れる。

- 2 再生(◀)ボタンを押す。

ボタンが戻らない位置まで強く押し込んでください。



音量を調節するには

音量+または-ボタンを押す(14ページ)。

迫力のある重低音を楽しむには

MEGA BASSボタンを押す(14ページ)。

再生をやめるには

停止/開(■▲)ボタンを押す。

再生中に一時停止するには

一時停止(⏸)ボタンを押す。もう1度押すと、一時停止した位置から再生が再開します。



巻戻し/早送りするには

必ず停止/開(■▲)ボタンで再生を停止してから、巻き戻し、早送りの操作をしてください。

• 巻戻し

巻戻し(◀▶)ボタンを押し、聞きたいところで停止/開(■▲)ボタンを押す。

• 早送り

早送り(▶▶)ボタンを押し、聞きたいところで停止/開(■▲)ボタンを押す。



カセットを取り出すには

停止/開(■▲)ボタンを押して再生を止めてから、もう一度停止/開(■▲)ボタンを押してカセットふたを開き、カセットを取り出す。

ご注意

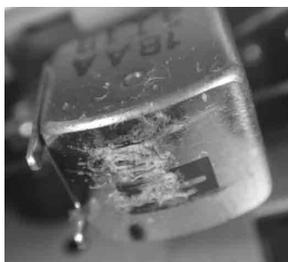
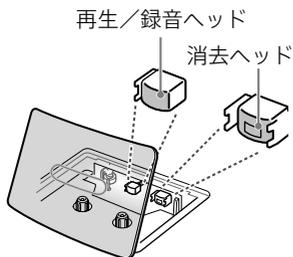
- テープの再生中に電源を切ると、故障の原因となります。必ず停止/開(■▲)ボタンで再生を止めてから電源を切ってください。
- 再生(◀)ボタンと同時に巻戻し(▶▶)ボタンを押さないでください。テープが機械に巻き込まれる場合があります。
- テープを再生したときに、雑音が多い、音質が悪いといった状態の場合は、再生/録音ヘッドを清掃してください。再生/録音ヘッドは定期的に清掃することをおすすめします。再生/録音ヘッドの清掃について詳しくは、「再生/録音ヘッドの清掃のしかた」(30ページ)をご覧ください。

再生時のノイズについて

カセットテープの再生では、機械式であるカセットデッキの構造そのものに起因する動作音や、テープ走行時のヘッドとテープの物理的な接触によって発生する“ヒスノイズ”、周辺の機器などからの電磁波をヘッドが拾うことによって引き起こされる誘導ノイズなど、さまざまな原因によるノイズが発生することがあります。これらは、カセットテープ特有のものであり、故障ではありません。

ヘッドが汚れたらクリーニングをしてください。 劣化していないテープや汚れのないテープをお使いください。

本体底面から見たところ



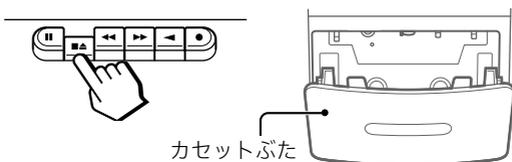
汚れの例(写真は再生/録音ヘッド)

- 「音が小さい/途切れる」、「音が出ない」などの症状や、きれいな音で再生や録音ができなくなるような症状が発生したら、ヘッドの状態を確認し、汚れていたらクリーニングをしてください。
- 「テープの音声が消去できない」、「消去が不完全になる」などにより、前に録音した音声に重なって録音されたり、録音時の音質が低下するような症状が発生したら、ヘッドの状態を確認し、汚れていたらクリーニングをしてください。

故障の原因になりますので、以下をご覧ください、定期的な清掃をしてください。

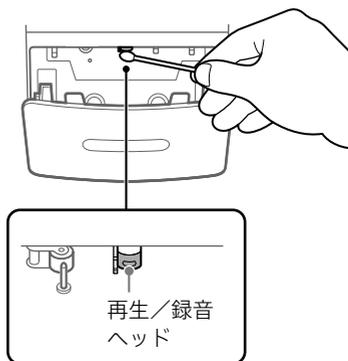
再生/録音ヘッドの清掃のしかた

1 停止/開(■▲)ボタンを押してカセットぶたを開ける。



2 綿棒を使って、清掃する。

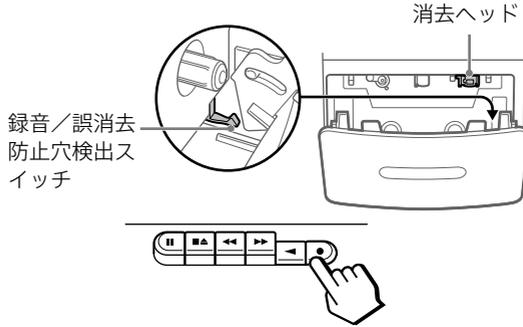
付属のヘッドクリーニングキットの綿棒を使い、再生/録音ヘッドの下面(曲面部分)の表面をから拭きしてください。
市販のテープヘッド用クリーニング液を綿棒に含ませて清掃するとより効果があります。



消去ヘッドの清掃のしかた

- 1 停止/開(■▲)ボタンを押してカセットぶたを開け、カセットデッキ内部の右下にある録音/誤消去防止穴検出スイッチを押し下げながら、録音(●)ボタンを押す。

カセットデッキ内部の録音/誤消去防止穴検出スイッチを押し下げながら、録音(●)ボタンを押すと、消去ヘッドが下がります。



- 2 綿棒を使って、清掃する。

付属のヘッドクリーニングキットの綿棒を使い、消去ヘッドの下面(曲面部分)の表面をから拭きしてください。汚れが落ちない場合は、綿棒に市販のテープヘッド用クリーニング液を軽く含ませて清掃してください。



ご注意

- 再生/録音不良、消去不良の原因となりますので、錆び止めや界面活性剤など異なる使用目的の溶剤の使用、ウェットティッシュを使った清掃などはおやめください。
- 綿棒が汚れたときは、市販の綿棒を使ってください。

外部機器をつないで 聞く

テレビやデジタルミュージックプレーヤーなどの外部機器を本機の音声入力端子につないで、スピーカーから流れる音を楽しむことができます。

本機と外部機器をつなぐときは、本機と外部機器の電源を切って作業してください。

1 外部機器の音声出力端子と本機のAUDIO IN（音声入力）端子を接続する。

別売りの音声ケーブル(ステレオミニプラグ)を使って、外部機器の音声出力端子(ヘッドホン端子など)につなぎます。



2 電源(⏻)ボタンを押して、本機の電源を入れる。

3 音声入力ボタンを押す。



4 つないだ機器で再生を始める。

本機のスピーカーから音声出力されません。

再生について詳しくは、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

5 音量+または-ボタンを押して、音量を調節する。

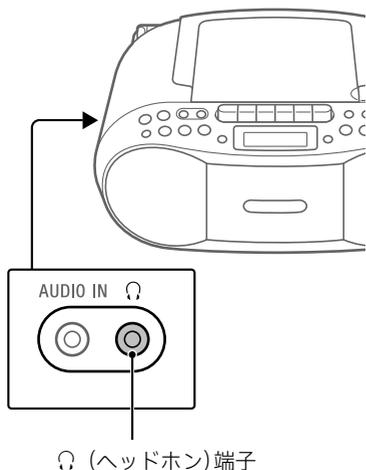
迫力のある重低音を楽しむには
MEGA BASSボタンを押す(14ページ)。

ご注意

- 接続した外部機器の出力端子がモノラルジャックの場合は、本機の右側スピーカーから音が出ない場合があります。
- 接続した外部機器の出力端子がラインアウト端子の場合は、ひずみが発生する場合があります。音がひずんだ場合は、外部機器のヘッドホン端子につないでください。
- ミュージックプレーヤーのヘッドホン端子とつないだ場合は、ミュージックプレーヤー側で音量を上げてから、本機の音量を調節してください。
- 接続した外部機器の音量が高すぎる場合、音が割れたり、ひずんだりすることがあります。その場合には、外部機器側で音量を下げ、適度な音量で聞いてください。
- 抵抗入りの音声ケーブル(ステレオミニ)を使用すると音量が小さくなる場合がありますので、抵抗なしの音声ケーブル(ステレオミニ)をご使用ください。

ヘッドホンをつないで聞く

- 1 別売りのヘッドホンを本体の
Ⓜ (ヘッドホン) 端子につなぐ。

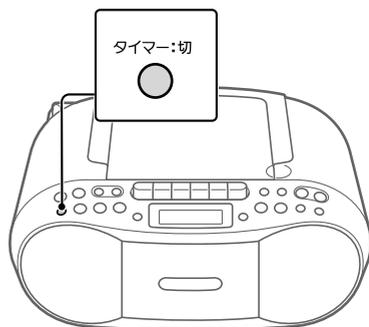


- 2 聞きたい音源を再生する。
- 3 音量+または-ボタンを押して、音量を調節する。
耳を刺激しないように適度な音量で聞いてください。

おやすみタイマーを使う

指定した時間がたつと、自動的に本機の電源が切れます。音楽を聞きながら安心してお休みになれます。

- 1 聞きたい音源を再生する。
以下のページをご覧ください。
CDを聞く (13ページ)
ラジオを聞く (22ページ)
テープを聞く (28ページ)
外部機器をつないで聞く (32ページ)
- 2 **タイマー：切** ボタンを繰り返し押し、電源が切れるまでの時間(分)を選ぶ。



ボタンを押すたびに、次のとおり表示が切り換わり、タイマーの時間が選べます。操作しない時間が約4秒経つと、その時点で選んでいた時間でタイマーが確定します。タイマーを使わないときは「OFF」を選んでください。



設定が完了すると、表示窓は元に戻り、「SLEEP」が表示されます。

ちょっと一言

- おやすみタイマーが働いているときは、8秒に1回、表示窓の「SLEEP」が点滅します。
- おやすみタイマーが働いているときは、表示窓の照明は消えます。
- 電源が切れる1分前になると、表示窓の「SLEEP」が1秒間隔で点滅します。
- テープ機能で再生、録音、消去を行っている間は、表示窓の「SLEEP」の点滅が始まってでも電源は切れません。再生、録音、消去が終わってから電源が切れます。
- おやすみタイマーで外部機器の電源は切れません。外部機器の電源は、機器側でオフにしてください。

電源が切れるまでの時間を確認するには

タイマー：切ボタンを1回押す。

電源が切れる1分前になると、「SLEEP」の点滅は8秒に1回のゆっくりとした点滅から速い点滅に変わります。残り時間を確認する場合は、速い点滅に変わる前に行ってください。速い点滅のスタートから電源が切れるまでの間に

タイマー：切ボタンを押すと、残り時間を表示するかわりに、おやすみタイマーがキャンセルされます。

おやすみタイマーを取り消すには

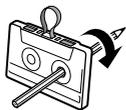
タイマー：切ボタンを繰り返し押しして「OFF」を選ぶ。または**電源** (⏻) ボタンを押して電源を切る。

テープに録音する

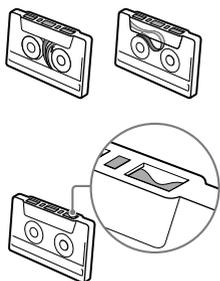
本機では、TYPE I（ノーマル）のカセットテープをお使いください。TYPE II（ハイポジション）、TYPE III（フェリクロム）、TYPE IV（メタル）のテープには対応していません(48ページ)。

操作をする前に、次のことを確認してください。

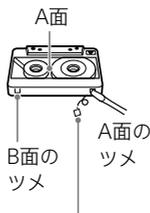
- テープが機械に巻き込まれるのを防ぐために、カセットデッキに入れる前に鉛筆などでたるみを巻き取るか、カセットデッキに入れたあと録音を始める前に数秒間早送りまたは巻き戻しを行ってください。
- 長時間テープは機械に巻き込まれる場合がありますので、90分以下のテープをお使いください。
- カセットのツメが折れているときは録音できません。ツメが折れた部分の穴をセロハンテープなどでふさぐと再び録音できます。



カセット内部でテープがたるんでいる場合もありますので、必ずたるみをとってから録音してください。テープが正しい位置を通らず、動作不良を起こす恐れがあります。



録音できないとき



録音できるとき



セロハンテープなどで穴をふさぐ。

録音したあとに、録音できないようにツメを折ったときは、必ず廃棄してください。誤って本体内部に入ると故障の原因になります。

- 電源コードを接続する(10ページ)、または乾電池のみで録音する場合には本体用電池の残量が充分あるか確認する。テープへ録音する際は、予期せず録音を終了してしまうことを避けるために電源コードの使用をおすすめします。

1 録音したい音を準備する。

CDを録音するとき

CD機能に切り換えるため、CDを入れて「CDを聞く」(13ページ)の手順1～2)、**停止**(■)ボタンを押して再生を停止しておく。

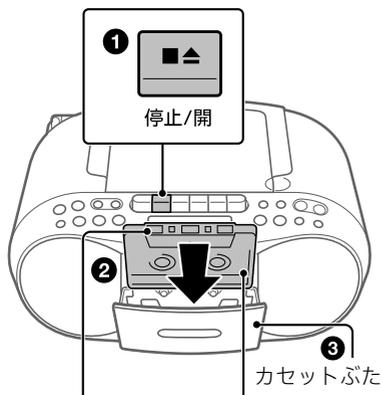
ラジオを録音するとき

録音したい放送局を受信する。「ラジオを聞く」(22ページ)参照

外部機器の音声を録音するとき

本機のAUDIO IN（音声入力）端子につないだテレビなどのAV機器やデジタルミュージックプレーヤーを再生する。「外部機器をつないで聞く」(32ページ)参照

- 2 停止/開(■▲)ボタンを押して(①)、カセットを入れ(②)、カセットぶた(③)を閉める。

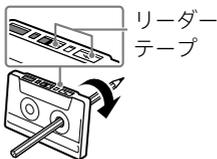


テープ面を上にして入れる。

録音したい面(A面またはB面)を手前にして入れる。

ご注意

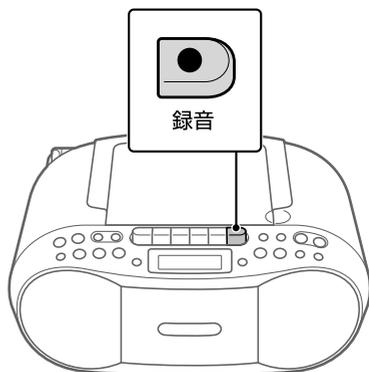
テープの両端には「リーダーテープ」と呼ばれる録音できない部分があります(磁性体の塗られていない部分)。録音時の頭切れを防ぐために、「リーダーテープ」の部分は鉛筆などで送ってからカセットを入れてください。



- 3 録音(●)ボタンを押す。

音楽CDまたはMP3 CDの曲を録音するときは、録音(●)ボタンを押せば、録音開始に合わせて自動的にCDの再生がスタートします。

録音ボタンが押せない場合は、録音/誤消去防止のツメが折れている可能性があります。折れている場合には、セロハンテープなどでふさいでください。



ちょっと一言

AM放送を録音するときに、録音(●)ボタンを押したあとに「ピー」という雑音がした場合は、ISS(干渉抑制スイッチ)の設定を変えてみてください。ノイズが軽減する場合があります。ISSの設定方法については、「録音中のAM放送のノイズを減らすには」をご覧ください。

ご注意

- 録音(●)ボタンと同時に巻戻し(▶▶)ボタンを押さないでください。テープが機械に巻き込まれる場合があります。
- 録音後の音質が悪い場合は、再生/録音ヘッドを清掃してください。再生/録音ヘッド、消去ヘッドは定期的に清掃することをおすすめします。再生/録音ヘッド、消去ヘッドの清掃について詳しくは、「再生/録音ヘッドの清掃のしかた」(30ページ)および「消去ヘッドの清掃のしかた」(31ページ)をご覧ください。

録音を一時停止するには

一時停止(II)ボタンを押す。もう1度押すと録音が再開します。



録音を途中でやめるには

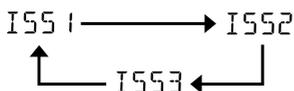
停止/開(■▲)ボタンを押す。

テープの終わりまで録音が到達した場合は、録音(●)ボタンと再生(◀)ボタンが自動的に上がります。テープの途中で録音をやめたいときは、停止(■)ボタンを押してください。

録音中のAM放送のノイズを減らすには

再生モードボタンを繰り返し押す。

ボタンを押すたびに、次のとおりISS (干渉抑制スイッチ)の設定が切り換わります(初期設定:ISS2)。



適切な設定は、放送局によって変わります。選択したISSの設定は、受信する放送局を変えても維持されますので、ノイズが気になるときは、選局したときにもっともノイズが消える設定を選び直してください。

CDの途中から録音するには

CDの再生中、録音を開始したいところで

CD再生/一時停止(▶II)ボタンを押して一時停止し、録音(●)ボタンを押す。

好きな曲順で録音するには

録音したい曲を選んでプログラム登録してから(「聞きたい曲を好きな順に聞く(プログラム再生)」(19ページ)参照)、録音(●)ボタンを押す。

1曲だけ録音するには

録音したい1曲を選んでプログラム登録してから(「聞きたい曲を好きな順に聞く(プログラム再生)」(19ページ)参照)、録音(●)ボタンを押す。

CDの任意の曲から録音するには

CDが停止していることを確認し、登録局選択+(▶▶)または-(◀◀)ボタンを押して録音を開始したい曲を選び、録音(●)ボタンを押す。

選択した曲の再生が自動的に始まり、CDのその曲以降の曲が録音されます。

録音した音が悪いときは

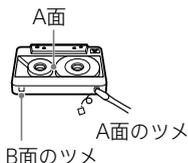
再生/録音ヘッド、消去ヘッドの汚れがひどくなると、きれいな音で録音できなくなったり、故障の原因になります。定期的に掃除を行うとともに、大切な録音を行う前には、あらかじめ掃除しておくことをおすすめします。掃除の仕方については、「再生/録音ヘッドの清掃のしかた」(30ページ)および「消去ヘッドの清掃のしかた」(31ページ)をご覧ください。

ご注意

- テープの終わりになる前にCDの曲の録音が終わった場合、CDの再生は自動的に停止しますが、テープへの録音は継続したままとなります。そのまま録音を停止しない場合は、テープの終わりまで無音状態を録音し続けます。以前に録音した曲も上書き消去されますので、無音状態を録音したくないときは、テープの停止/開(■▲)ボタンを押して録音を停止してください。
- CDの曲の録音でテープの終わりまで録音が到達した場合、CDの再生は継続したままとなります。CDの停止(■)ボタンを押してCDの再生を停止してください。

- ラジオまたは外部機器の音声を録音する場合には、録音をやめたいところでテープの**停止/開**(■▲)ボタンを押して録音を停止してください。録音を停止しない場合は、テープの終わりまでラジオまたは外部機器の音声を録音を続けます。
- 録音後のテープは、ツメを折って録音できないようにすれば、誤って録音内容を消してしまうミスが防げます。再び同じテープに録音したいときは、穴をセロハンテープなどでふさいで使用してください。

録音できないように



再び録音するとき



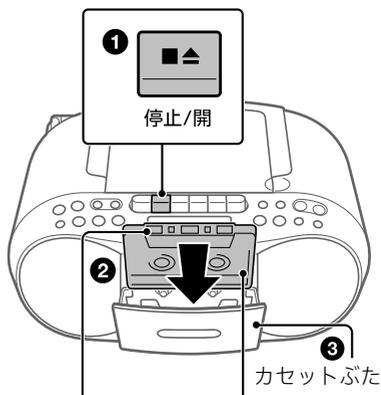
セロハンテープなどで穴をふさぐ。

録音した曲や音声を消去する

テープに録音した曲や音声を消去するには、上書き録音する必要があります。

- 本体に電源コードを接続する(10ページ)。予期せず上書き録音が終わってしまうことを避けるために、テープの曲や音声を消去するときは電源コードを接続して行ってください。
- カセットのツメを折っているときは消去はできません。穴(録音/誤消去防止穴)をセロハンテープなどでふさいでください。詳しくは、操作前の確認事項をご覧ください(35ページ)。

- 1 停止/開(■▲)ボタンを押して(1)、消去したいカセットを入れ(2)、カセットぶた(3)を閉める。



テープ面を上にして入れる。

消去したい面(A面またはB面)を手前にして入れる。

- 2 テープ機能に切り換えるため、いったんテープを再生してから停止状態にしておく。

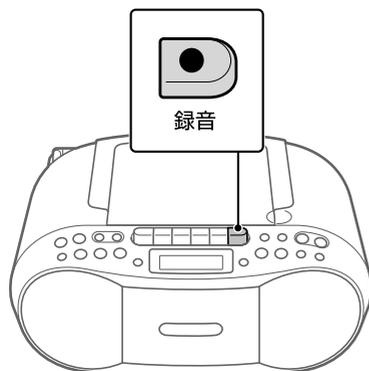
「テープを聞く」(28ページ)の手順1～2と、「再生をやめるには」(29ページ)をご覧ください。

3 録音(●)ボタンを押す。

無音状態が録音され、テープ内の曲や音声が上書き消去されます。

カセットテープには、A面とB面の両面があります。両面とも消去したいときは、片面ずつ同じ手順で消去してください。

消去に要する時間は、再生時間と同じになります。例えば、片面のテープの先頭から終わりまでを消去するのに要する時間は、片面全体の再生時間と同じです。



困ったときは

本機が正しく動作しないときは、下記の項目をチェックしてください。

それでも正しく動作しないときは、ソニーの相談窓口またはお買い上げ店にお問い合わせください。

共通

電源コードをつないだのに電源が入らない。

- 本機のAC IN端子と壁のコンセントに、電源コードのプラグがそれぞれしっかりと差し込まれているか確認してください。電源コードのプラグをAC IN端子に差し込むときは、プラグの先端がAC IN端子の奥に当たるまでしっかり差し込んでください。
- 電源タップなどを使用せずに、壁のコンセントに電源コードのプラグを直接差し込んでつなぐ。

乾電池を入れたのに電源が入らない。

- 単2乾電池6本を正しい向きに入れ、本機のAC IN端子から電源コードを抜く。乾電池を正しく入れていても、電源コードがAC IN端子に接続されていると電源検出スイッチが働いたため、本機の電源は入りません。
- 乾電池アダプターなどを使って単2形乾電池以外の電池を使わないでください。単2形乾電池よりも小さい乾電池は、電流量や電池容量が小さく正しく動作できません。また、乾電池アダプターの形状によっては正常に装着できない場合や、電池端子部分での接触不良などが起こる場合があります。
- 充電電池(単2形ニッケル水素電池)は、同形のアルカリ電池に比べて電圧が低く、電流量や充電容量などの関係で本機では使用できません。
- 「L O B A T T Y」が点滅する。
 - ➔ 乾電池をすべて新しいものと交換する。または電源コードを接続する。
 - ➔ 買い置きしたまま長時間放置した乾電池を入れた場合、消耗していて使えない可能性があります。新しい乾電池を購入して交換してみてください。

電池の消耗が早い。

- 本機をマンガン乾電池でお使いの場合、使用時間が著しく短くなることがあります。乾電池で使う場合は、アルカリ乾電池をお使いください。乾電池での使用について詳しくは、「乾電池を使用する」をご覧ください(10ページ)。
- 電池の持続時間については、「主な仕様」の「共通部」をご覧ください(47ページ)。周囲の温度や使用状況、電池のメーカーや種類により電池の持続時間は異なります。

音が出ない。

- 音量を調節する。
- スピーカーで聞くとときは、ヘッドホンを  (ヘッドホン)端子から抜く。

雑音が入る。

- テレビ、パソコン、携帯電話などの電子機器を使用している。
 - ➔ テレビ、パソコン、携帯電話などの電子機器から離して使用する。

本体から「ブーン」と小さいノイズ音がする。

- 電源の状況により本体から「ブーン」と小さいノイズ音がする場合がありますが、故障ではありません。

音が割れる、ひずむ。

- 音量が大きすぎる。
 - ➔ 音量を上げたときに音が割れたり、ひずむことがあります。そのような場合は、音量を下げた適切な音量で聞いてください。
 - ➔ CDにより録音されている音量に差があります。大きな音で録音されているCDは、音量を上げたときに音が割れたり、ひずむことがあります。そのような場合は、音量を下げた適切な音量で聞いてください。
- 乾電池が消耗している。
 - ➔ 乾電池が消耗していると音が割れることがあります。そのような場合には、乾電池をすべて新しいものと交換してください。

乾電池での使用中に電源が落ちる。

- お使いの乾電池の状態によっては、CDの読み込み時や大きな音量が出るタイミングで本機の電源が落ちる可能性があります。そのような場合には、乾電池をすべて新しいものと交換してみてください。

CD

再生が始まらない。

- CDが装着されていない。
→ CDの中央部を押し込んでCDを装着部にしっかり装着させる(13ページ)。
- CDぶたが閉まっていることを確認する。
- CDが裏返しで入っている。
→ 印刷面を上にする。
- CDの汚れがひどい。
→ 「CDの取り扱いとお手入れについて」をご覧ください(21ページ)。
- レンズに露(水滴)がついている。
→ CDを取り出して電源を切り、CDぶたを開けたまま1時間ぐらい置く。

レンズ



- CDに傷やひび割れがないか確認してください。傷やひび割れがある場合には、別のCDを使用してください。CDの傷やひび割れについて詳しくは、「CDの取り扱いとお手入れについて」(21ページ)をご覧ください。



- CD-R (追記型CD) / CD-RW (書き換え可能CD)に再生可能なファイル(曲)が記録されていない。
→ 対応するフォーマットを確認する(49ページ)。
- パソコンやCDレコーダーで作成されたCD-R/CD-RWを本機で再生する場合は、ディスクのファイナライズ処理(通常のCDプレイヤーで再生できるようにする処理)が必要です。ファイナライズ処理されていないディスクは本機では再生できません。

- CD-R/CD-RWでは、ディスクや記録に使用したレコーダーの状態によって再生できない場合があります。
- 乾電池が消耗している。
→ すべて新しいものと交換する。または電源コードを接続する。

CDが入っているのに「NO CD」が表示される。

- CDが裏返しで入っている。
→ 印刷面を上にする。
- 読み取りに問題のあるCDを入れた。
→ CDを取り換える。
- BD (ブルーレイディスク)やDVDなど本機で再生できないディスクを入れた。
→ ディスクを取り換える。

CDを入れたときに「□□」が点滅する。

- 本機が対応する拡張子やフォーマットのファイルがひとつも記録されていないCDを入れた。
→ CDを取り換える。本機はMP3形式(MPEG 1 Audio Layer-3、拡張子:.mp3)以外のオーディオファイルには対応していません(49ページ)。

CDを入れたときに「Err」と表示される。

- CDの汚れがひどい。
→ 「CDの取り扱いとお手入れについて」をご覧ください(21ページ)。
- CDに傷がある(21ページ)。
→ そのCDは再生できません。他のCDの再生をお試しください。
- 本機がサポートしていないファイルシステムのCDを入れた。
→ ISO9660 Level 1/Level 2またはJolietのファイルシステムで作成したCDと取り換えてください(48ページ)。

音が飛ぶ、雑音が入る。

- CDによっては音が飛ぶことがあります。
→ 音量を調節して、適度な音量で聞く。
- CDの汚れがひどい。
→ 「CDの取り扱いとお手入れについて」をご覧ください(21ページ)。
- CDに傷がある(21ページ)。
→ CDを取り換える。
- 振動のない場所に置く。
- CD-R/CD-RWでは、ディスクや記録に使用したレコーダーの状態によって、再生された音が飛んだり雑音が入ることがあります。
- 著作権保護技術付き音楽CDは、再生できない場合があります(45ページ)。

再生が最初から始まらない。

- **再生モード**ボタンを繰り返し押し、リピート再生/シャッフル再生/プログラム再生を解除する。

データCDのファイルを再生できない。

- 本機が対応するファイルシステムでフォーマットされているか確認する(48ページ)。
- ファイル名の拡張子が間違っているか、付いていない。
 - 拡張子が「.mp3」になっているか確認する。
- オーディオファイルのフォーマットが適切でない。
 - 対応するフォーマットを確認する(49ページ)。
- MP3 PRO形式で作成されているオーディオファイルは、本機では再生できません。
- 本機が認識可能な最大階層(フォルダレベル)を超えている(9階層まで認識可能)。
- データCDに記録されているフォルダ数が99を超えている。
- ファイル総数が413を超えている。
- パスワードでプロテクトされたファイル、暗号化によって保護されたファイルは再生できません。

再生が始まるまでに時間がかかる。

- 次のような場合、CDの再生が始まるまでにしばらく時間がかかることがあります。
 - CD内のファイル構造が極端に複雑になっている。
 - CD内のフォルダ、ファイルの数が多すぎる、またはCD内にMP3形式以外のファイルが含まれている。

CDを聞くと、近くのテレビやラジオに雑音が入る。

- 本機をテレビやラジオからできるだけ離す。

CDの読み込み時に「キュルキュル」と音がする。

- 読み込み時の動作音です。故障ではありません。

ラジオ

ラジオが受信できない。

- 乾電池が消耗している。
 - すべて新しいものと交換する。または電源コードを接続する。
- 置き場所を変えてみる(23ページ)。
- アンテナの向きを変えてみる(23ページ)。

FMラジオが受信できない。

- FMアンテナが引き出されていない。FMアンテナを伸ばし、向きや角度を調整してください(23ページ)。

ラジオ受信中、音が小さい、または音質がよくない。

- 建物の中では電波が弱いので、なるべく窓際でお聞きください(23ページ)。
- 家電製品や携帯電話の近くから離す(24ページ)。

FMラジオ受信中、テレビの画像が乱れる。

- 室内アンテナを使用しているテレビの近くでFMラジオを受信している場合は、テレビから離す。

聞きたい放送局が受信できない。

- 正しいプリセット番号を選んでいない。
 - 正しい放送局のプリセット番号を選ぶ(26ページ)。
- 周波数が合っていない可能性があります。聞きたい放送局の周波数に合わせてください(22ページ)。
- 正しい**お気に入りラジオ局(登録：長押し)**ボタンを押していない。
 - 聞きたい放送局が登録された**お気に入りラジオ局(登録：長押し)**ボタンを押してください(27ページ)。
- お住まいの地域や環境によっては、一部の放送局の受信状態が良くない場合があります。
- 受信状態がよくなる場合は、「ラジオの受信場所とアンテナの調整について」(23ページ)もご覧ください。

雑音が入る。

- 本機を電灯線、蛍光灯、携帯電話などに近づけると、ノイズが入る場合があります。
- 聞きたい放送局の周波数に合っているか確認してください。

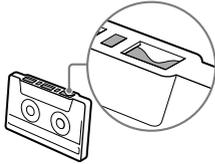
AMラジオの録音時、「ピー」という音が出る。

- 再生モードボタンを繰り返し押し、最も雑音が少なくなるISSの設定を選んでください(37ページ)。

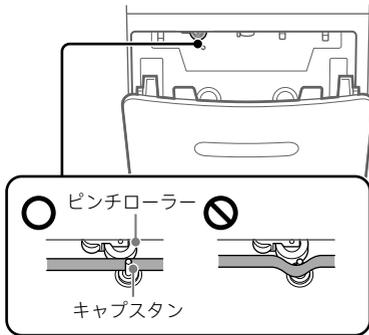
テープ

操作ボタンを押してもテープが動かない、再生速度がおかしい。

- 図のようにテープがたるんだ状態のままのカセットを入れたことにより、テープが正常な位置を通っていない可能性があります。



一度カセットを取り出して、テープのたるみをとってから入れ直してください。



テープがキャプスタンとピンチローラーの間を正常に通っていないと、「テープが動かない」、「再生速度がおかしい」といった現象が起きます。故障の原因にもなりますので、テープを入れるときはあらかじめテープのたるみがないか確認し、たるんでいる場合には、必ずたるみを取ってから入れてください。

雑音が多い、音質がよくない。

- 再生／録音ヘッドが汚れている。
→クリーニングする(30ページ)。

音がひずむ。

- TYPE II (ハイポジション)、TYPE III (フェリクロム)またはTYPE IV (メタル)テープを使っている。
→TYPE I (ノーマル)テープを使う。
- 同じテープに何度も録音して使っている。
→新しいテープを使う。
- 90分を越えるテープを使っている。
→90分を越えるテープは音がひずみやすいので90分以下のテープをお使いください。

古いテープが再生できない。

- 再生／録音ヘッドが汚れている。
→クリーニングする(30ページ)。
- テープにカビや汚れが付着している。
→カビや汚れが付着したテープはお使いにならないでください。ヘッドの汚れがひどくなり、再生できなくなったり、故障の原因となります。
- テープが劣化している。
→劣化したテープはお使いにならないでください。テープの磁性体がはがれてヘッドに付着し、再生できなくなったり、故障の原因となります。
→ヘッドクリーニングをする(30ページ)。

録音ができない。

- カセットの上下、面を正しく入れる(36ページ)。
- カセットデッキに入れたカセットのツメが折れていたら、穴をゼロハンテープなどでふさぐ(35ページ)。

前の録音を上書き消去しても完全に消えない。

- 消去ヘッドをクリーニングする(31ページ)。
- TYPE II (ハイポジション)、TYPE III (フェリクロム)またはTYPE IV (メタル)テープを使っている。
→TYPE I (ノーマル)テープを使う。

外部機器

外部機器からの入力音声が割れる、ひずむ。

- 接続した機器側の音量が大きすぎる。
 - 接続した機器側で音量を下げてください。
- 接続した機器の音量が大きすぎる場合、音が割れたり、ひずんだりすることがあります。

上記以外の症状で正常に動作しないときは、電源コードを差し込み直すか、電池を入れ直してください(10ページ)。症状が改善する場合があります。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーの相談窓口にご連絡ください。

メッセージ一覧

本機の使用中に、次の英語のメッセージが表示、または点滅することがあります。

共通

LOW BATT

- 乾電池が消耗している。
 - すべて新しいものと交換する。または電源コードを接続する。

PUSH STOP

- 再生中や一時停止中には働かないボタンを押した。
 - **停止**(■) ボタンを押して再生を停止させてから、ボタンを押す。

STOP TAPE

- テープの**早送り**(◀◀)または**巻戻し**(▶▶) ボタンが押されたままの状態になっている。
 - **停止/開**(■▲) ボタンを押して、解除する。

CD

FULL

- 26曲(ステップ)以上プログラムしようとした。

noSTEP

- プログラム登録した曲(ファイル)がすべて削除された。

no[C]

- CDが入っていないため、再生やテープへの録音ができない。
- CDに傷やびび割れなどがあり、読み取りできない(21、41ページ)。

00

- 本機が対応していないフォーマットのファイルが記録されている(41ページ)。

Error

- CDに傷やびび割れなどがあり、読み取りできない。または本機が対応できないファイルシステムのCDが入っている(41ページ)。

使用上のご注意

設置時のご注意

- 本機のスピーカーには強力な磁石を使っています。次のようなものは本機のスピーカーのそばに置かないでください。磁気に変化して不具合が起きることがあります。
 - ー時計
 - ークレジットカードなどの磁気カード
 - ーカセットテープ、ビデオテープなどの磁気テープまた、本機をテレビの近くには置かないでください。テレビの画像が乱れることがあります。
- 本機は防水仕様ではありません。特にキッチンなどの水場や、雨や雪、湿度の多い場所で使用するときには、水がかからないようご注意ください。
- 本機の上に重いものを置かないでください。
- 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤、薬品などが塗られている場所に本機を設置すると、変色、染みなどが残ったり、内部部品の腐食などによる接触不良やショートなどを引き起こすことがあります。
- 照明器具やヒーターなど、熱を発する器具のそばに本機を置かないでください。外装が変形したり、故障を引き起こす恐れがあります。

取り扱いについて

- 落としたり、強いショックを与えたりしないでください。故障の原因になります。
- CDぶたを開けたまま放置しないでください。内部にゴミやほこりが入り、故障の原因になることがあります。
- 空気が乾燥する時期にヘッドホンを使用すると、耳にピリピリと痛みを感じるがありますが、ヘッドホンの故障ではなく、人体に蓄積された静電気によるものです。静電気の発生しにくい天然素材の衣服を身に着けていただくことにより、軽減されます。
- 本機を寒いところから急に暖かいところに持ち込んだときなど、機器表面や内部に水滴がつくことがあります(結露)。結露が起きたときは電源を切り、結露がなくなるまで放置し、結露がなくなってからご使用ください。結露時のご使用は機器の故障の原因となる場合があります。

温度上昇について

- 本機を長時間お使いになると、本体の温度が上昇することがありますが、故障ではありません。

本機のお手入れのしかた

- 本体表面が汚れたときは、水気を含ませた柔らかい布で軽く拭いたあと、からぶきします。シンナーやベンジン、アルコール類は表面の仕上げを傷めますので使わないでください。

ノイズについて

- 再生中に本機を電灯線、蛍光灯、携帯電話などに近づけすぎると、ノイズが入ることがあります。

CDについて

- 本機では円形CDのみお使いいただけます。円形以外の特殊な形状(星型、ハート型、カード型など)をしたCDを使用すると、本機の故障の原因となることがあります。
- CD-R/CD-RWについて
本機は、CD-DAフォーマット*で記録されたCD-R(追記型CD)およびCD-RW(書き換え可能CD)を再生することができます。ただし、お使いになったCD-R、CD-RWや記録に使用したレコーダーの状態によって再生できない場合があります。

* CD-DAはCompact Disc Digital Audioの略で、一般のオーディオCDに使用されている、音楽収録用の規格です。

- 本機はCD再生専用です。CD-R/CD-RWに録音はできません。
- 再生可能なCDについて
本機では以下のCDが再生できます。
 - ー音楽用CD(CD-DA)
 - ーCD-DA/MP3(CD-R/CD-RW)

著作権保護機能付き音楽ディスクについて

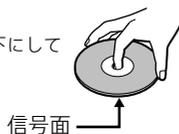
- 本機は、コンパクトディスク(CD)規格に準拠した音楽ディスクの再生を前提として、設計されています。いくつかのレコード会社より著作権保護を目的とした技術が搭載された音楽ディスクが販売されていますが、これらの中にはCD規格に準拠していないものもあり、本機で再生できない場合があります。

DualDiscについて

- DualDiscとはDVD規格に準拠した面と、音楽専用面とを組み合わせた新しい両面ディスクです。なお、この音楽専用面はコンパクトディスク(CD)規格には準拠していないため、本製品での再生は保証いたしません。

CDの取り扱いかた

- 文字の書かれていない面を下にして持ちます。



- 紙やシールなどを貼ったり、傷つけたりしないでください。



- 長時間再生しないときは、ケースに入れて保管してください。ケースに入れずに重ねて置いたり、ななめに立てかけておくとそりの原因になります。

CDのお手入れのしかた

- 指紋やほこりによるCDの汚れは、音質低下の原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でCDの中心から外の方へ軽く拭きます。

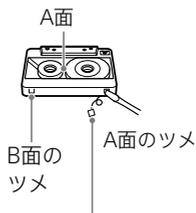


- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた布で拭いたあと、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などは、CDを傷めることがありますので、使わないでください。

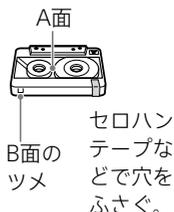
テープの大切な録音を守るために

- ツメを折ると録音できなくなるので、誤って録音内容を消してしまうミスが防げます。ツメを折っても穴をセロハンテープなどでふさげば再び録音できます。

録音できないようにするとき



再び録音するとき



折ったツメは、必ず廃棄してください。誤って本体内部に入ると故障の原因になります。

長時間テープをお使いのときは

- 90分を越えるテープは長時間使用には便利ですが、薄く伸びやすいテープです。こざざみな走行、停止、早送り、巻戻しなどを繰り返すと、テープが機械に巻き込まれる場合がありますので、ご注意ください。

エンドレスカセットテープについて

- エンドレスカセットテープはお使いにならないでください。機械に巻き込まれる場合があります。

劣化していないテープ、汚れのないテープをお使いください

- 劣化したテープや汚れやカビが付着したテープはお使いにならないでください。ヘッドの汚れがひどくなると、音が小さい、途切れる、音が出ないなどの症状が出て、きれいな音で録音や再生ができなくなり、故障の原因となります。

ヘッドホン(別売)使用時のご注意

- 音量を調節して、耳を刺激しないように適度な音量で聞いてください。

主な仕様

CDプレーヤー部

型式	コンパクトディスクデジタルオーディオシステム
チャンネル数	2チャンネル
ワウ・フラッター	測定限界以下 (JEITA*) ¹
周波数特性	20Hz - 20,000Hz +1/-2dB (JEITA*) ¹
対応ファイルフォーマット	MP3 (MPEG 1 Audio Layer-3)

ラジオ部

受信周波数	FM : 76.0MHz - 108.0MHz AM : 531kHz - 1,710kHz
アンテナ	FM : ロッドアンテナ AM : フェライトバーアンテナ内蔵

カセットデッキ部

トラック方式	4トラック2チャンネル
周波数範囲	TYPE I (ノーマル)カセット 80Hz - 10,000Hz (JEITA*) ¹

共通部

スピーカー	フルレンジ: 8cm、 コーン型、2個
入力端子	音声入力(ステレオミニジャック) 1個
出力端子	ヘッドホン(ステレオミニジャック) 1個 負荷インピーダンス 16Ω - 32Ω
実用最大出力電源	1.7W + 1.7W (JEITA*) ¹ /4Ω 家庭用電源 (AC100V 50Hz/60Hz) 単2形乾電池6個使用 (DC 9V) (別売)
消費電力	11W 1W以下 (電源オフ時) CD再生時 (JEITA*) ¹
電池持続時間* ²	約10時間 (音量23程度) FM受信時 約23時間 (音量23程度) テープ再生時 約15時間 (音量23程度)

最大外形寸法	約310mm × 140mm × 212mm (幅 × 高さ × 奥行き) (最大突起部含む)
質量	約1.9kg (乾電池除く) 約2.3kg (乾電池含む)

付属品

電源コード (1)、取扱説明書・保証書 (1)、
ヘッドクリーニングキット (1)

*¹ JEITA (電子情報技術産業協会)規格による測定値です。

*² ソニー単2形 (LR14) アルカリ乾電池使用時。周囲の温度や使用状況、電池のメーカーや種類により、上記の電池持続時間と異なることがあります。

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

著作権について

- 権利者の許諾を得ることなく、この取扱説明書の全部または一部を複製、転用、送信等を行うことは、著作権法上禁止されています。
- あなたが録音したものに著作物となるデータが含まれている場合、個人として楽しむなど私的使用の目的の他は、著作権法上、権利者に無断で使用することができません。著作権で守られたデータを録音したカセットテープは、著作権法で規定された範囲内で使用してください。

商標について

- 本機はFraunhofer IISおよびThomsonのMPEG Layer-3オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名、企業名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では™、®マークは省略している場合があります。

ディスクとカセットテープについて

再生できるディスク

ディスクを再生するときは、ディスクの種類を確認し、本機が対応するディスクをご利用ください。

ディスクの種類	曲/ファイルのフォーマット	対応
CD、 CD-R/CD-RW*1*3	CD-DA*2	可
CD-R/CD-RW*1*3	MP3	可
	WMA	不可
	AAC	不可
SA-CD (スーパーオーディオCD)	CD層	可
	SA-CD層	不可
DVD		不可
BD (ブルーレイディスク)		不可

*1 音楽CD (CD-DAフォーマット)の規格に準拠していない形式で記録されたCD-R/CD-RW、ISO9660Level 1/Level 2またはJolietのフォーマットに準拠しないCD-R/CD-RWは再生できません。

*2 CD-DAはCompact Disc Digital Audioの略で、一般の音楽CDに使用されている、音楽収録用の規格です。

*3 ファイナライズ処理が必要です。

ご注意

- 本機では円形のCDのみお使いいただけます。円形以外の特殊な形状(星型、ハート型、カード型など)をしたCDを使用すると、本機の故障の原因となることがあります。
- 8 cm CDは、周囲の環境や使用状況により再生できない場合があります。
- 本機はCD再生専用です。CD-R/CD-RWに録音はできません。
- CD-R/CD-RWの再生では、お使いになったディスクの品質や記録に使用したレコーダーの状態によって再生できない場合があります。

使用できるカセットテープ

カセットテープの再生、カセットテープへの録音には、TYPE I (ノーマル)のテープをご利用ください。本機は、TYPE II (ハイポジション)、TYPE III (フェリクロム)、TYPE IV (メタル)のテープには対応していません。

カセットテープの種類	イコライザー時定数	対応
TYPE I (ノーマル)	120 μ s	可
TYPE II (ハイポジション)	70 μ s	不可
TYPE III (フェリクロム)	70 μ s	不可
TYPE IV (メタル)	70 μ s	不可

ご注意

カセットテープによっては、TYPE名やイコライザー時定数の値の記載が製品にない場合があります。お買い上げ時にご確認ください。

長時間テープをお使いのときは

90分を越えるテープは長時間使用には便利ですが、薄く伸びやすいテープです。こきざみな走行、停止、早送り、巻き戻しなどを繰り返すと、テープが機械に巻き込まれる場合がありますので、ご注意ください。

エンドレスカセットテープについて

エンドレスカセットテープはお使いにならないでください。テープが機械に巻き込まれる場合があります。

再生できるファイル について

ファイルフォーマットについて

本機が対応するオーディオファイルのフォーマットは、次のとおりです。

- MP3 (MPEG-1 AUDIO Layer-3)
拡張子 : .mp3

ご注意

- MP3 PRO形式で作成されているオーディオファイルは、本機では再生できません。
- 正しい拡張子をファイル名が持っていますが、フォーマットが異なる場合は、本機では再生できない、または再生するときに不具合が生じる場合があります。

フォルダ数・ファイル数の上限について

本機が再生対象として認識できるMP3 CDのフォルダ数とファイル数は、次のとおりです。

最大フォルダ数 : 99
(ルートフォルダ含む)
最大ファイル数 : 413

サポートページのご案内

ラジオ/CDラジオ・ラジカセサポートのホームページでは、よくあるお問い合わせとその回答をご案内しています。

URL :
<https://www.sony.jp/support/radio/>



携帯電話やスマートフォンなどの二次元コード読み取り機能でご利用ください。

保証書とアフターサービス

保証書

所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。

保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この取扱説明書をもう一度ご覧になったり、サポートページ(「サポートページのご案内」(49ページ)参照)の情報も参考にしてお調べください。

それでも具合の悪いときは

お買い上げ店またはソニーの相談窓口(下記)にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではパーソナルオーディオシステムの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後6年間保有しています。ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

製品登録のおすすめ

ソニーは、製品をご購入いただいたお客様のサポートの充実を図るため、製品登録をお願いしております。詳しくはウェブ上の案内をご覧ください。

◆ パソコン・スマートフォンから

<https://www.sony.co.jp/radio-regi/>



◀ 二次元コードでスマートフォンからアクセス

製品のご登録についてのお問い合わせ

ソニーマーケティング(株)

My Sony Club お客様窓口

電話: フリーダイヤル 0120-735-106

携帯電話・PHS・一部のIP電話: 050-3754-9639

型名: CFD-S70

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。

<https://www.sony.jp/support/>

使い方相談窓口

フリーダイヤル…………… 0120-333-020

携帯電話・PHS・一部のIP電話… 050-3754-9577

修理相談窓口

フリーダイヤル…………… 0120-222-330

携帯電話・PHS・一部のIP電話… 050-3754-9599

※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

FAX(共通)0120-333-389

左記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に

「304」+「#」

を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

索引

ア行

- 頭出し
 - CD 15
- アンテナ 23
- お手入れ
 - CD 21、46
 - 再生/録音ヘッド 30
 - 消去ヘッド 31
 - 本体 45
- おやすみタイマー 33
- 音声入力端子 32
- 音量調節 14

カ行

- 画面
 - 再生画面 14
 - 表示窓 9
- クリーニング
 - CD 21
 - テープ 30、31
- 繰り返し聞く 17

サ行

- 再生する
 - CD 13
 - CDのいろいろな再生方法 17
 - 外部機器 32
 - テープ 28
 - フォルダ再生 18
- 再生モード 17
- 削除する
 - プログラム登録曲 20
- シャッフル再生 19
- 消去する
 - テープの曲や音声 38
- 接続する
 - 電源コード 10

タ行

- データCD 13、16
- テレビの音声を聞く 32
- 電源
 - 電源コードを接続する 10
 - 電源を入れる・切る 12
- 電池
 - 電池残量を調べる 11

ハ行

- 早送り・早戻し
 - CD 15
- 早送り・巻戻し
 - テープ 29
- ファイル 16、49
- フォルダ 16、49
- フォルダ再生 18
- プリセット局(ラジオ)を選ぶ 26
- プログラム再生 19
- ヘッドホン端子 33
- 本体各部のなまえ 8

マ行

- モノラル受信(FMラジオ) 24

ラ行

- ラジオ
 - アンテナを調整する 23
 - お気に入りラジオ局ボタンで聞く 27
 - お気に入りラジオ局ボタンに登録する 27
 - 聞く 22、26、27
 - 受信状態をよくする 23
 - 放送局に登録する 25、27
- リピート再生 17
- 録音する
 - カセットテープ 35

A-Z

- AM 22
- CD
 - お手入れ 21
 - 再生できるディスク 48
 - データCD 13、16
- FM 22
- MEGA BASS 14、23、29、32
- MP3 13、16、49

保証書

持込修理

品名	パーソナルオーディオシステム
型名	CFD-S70
お買上げ日	年 月 日

本書は、本書記載内容(下記記載)で無料修理を行うことをお約束するものです。お買上げの日から下記期間中に故障が発生した場合は、お客様欄にご記入の上、修理をお申付けください。

ソニー特約店

お問合せ先：修理相談窓口
フリーダイヤル：**0120-222-330**
携帯電話・PHS・一部のIP電話からは、050-3754-9599
ホームページ：<https://www.sony.jp/support/>
ソニーマーケティング株式会社 東京都港区港南1-7-1 〒108-0075

保証期間	お買上げの日から	1年
お客様住所 お名前	電話	- - 様

無料修理規定

1. 正常な使用状態で保証期間内に製品(ハードウェア)が故障した場合には、本書に従い無料修理をさせていただきます。本書記載の修理対応の種別(出張修理、持込修理、引取修理)をご確認の上、以下の要領でご依頼および本書(再発行しませんので、大切に保管してください)の提示・提出をお願いいたします。なお、受付窓口の種類は、(1)お買上げのお店、(2)お近くのソニーサービスステーション、(3)本書に記載の修理相談窓口の3種類です。

種別	受付窓口	保証書の提示・提出	注意事項
出張修理	(1)(2)(3)	出張修理担当者が訪問した際に提示	※1
持込修理	(1)(2)	持参した製品の修理依頼の際に提示	※2
引取修理	(3)	製品の引取時に指定業者へ提出	

※1 離島及び離島に準ずる遠隔地への出張修理となる場合、出張費用(実費)を申し受けます。

※2 (1)(2)へのご依頼が難しい場合は、(3)にご相談ください。

2. お客様のご要望により、出張修理の種別について引取修理を、持込修理の種別について出張修理・引取修理を、引取修理の種別について出張修理を行う場合は、別途所定の料金を申し受けます。

3. 保証期間内の故障でも次の場合には有料となります。

(1)本書のご提示がない場合(2)本書にお買上げ日およびソニー特約店の記載がない場合または本書の記載を書き換えた場合(3)保証期間中に発生した故障について、保証期間終了後に修理依頼された場合(4)使用上の誤り(取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書きに従った正常な使用をしなかった場合を含む)による故障・損傷(5)他の機器から受けた障害または不当な修理、改造による故障・損傷(6)お買上げ後の移設、輸送、落下などによる故障・損傷(7)火災、地震、風水害、落雷その他の天災地変、公害、塩害、ガス害(硫化ガスなど)、異常電圧などによる故障・損傷(8)業務用など一般家庭用以外での使用による故障・損傷(9)消耗・摩耗した部品の交換、汚損した部分の交換

4. 故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

5. 修理に際して再生部品・代替部品を使用する場合があります。また、修理により交換した部品は弊社が任意に回収のうえ適切に処理・処分させていただきます。

6. 本書に基づく無料修理(製品交換を含む)後の製品については、最初のご購入時の保証期間が適用されます。

7. 故障によりお買上げの製品を使用できなかったことによる損害については補償いたしません。

8. 記録媒体を搭載または使用する製品の場合、故障の際または修理・交換により記録内容が消失等する場合がありますが、記録内容についての補償はいたしません。

9. 本書は日本国内でのみ有効です。(This warranty is valid only in Japan.)

修理メモ

* 本書はお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
* 保証期間後の修理については、取扱説明書等をご覧ください。 T02-5

ソニーの相談窓口
については、50ページ
をご覧ください。

©2016 Sony Corporation
Printed in China



* 4 5 8 4 3 4 7 0 3 * (1)